

マラウィ HIV 検査施設改善アプローチ

【ファクトシート 事例集】



2008 年 9 月

独立行政法人 国際協力機構

JICA 序文

青年海外協力隊 OB の皆様方が組織した、都市計画・建築関連分野の OB 会である、『NPO 法人都市計画・建築関連 OV の会:通称EVAA』の活躍は目覚しく、青年海外協力隊やシニア海外ボランティアの派遣を通じて国民参加型協力を推進する青年海外協力隊事務局としては大変心強い限りです。

EVAA のエイズ対策分野への派遣は 2006 年ケニアにはじまり、建築的な視点から施設改善を実施するという新しいアプローチが現地で評価を受け、2007 年にはガーナ、2008 年にはセネガルへと、3 回に渡って行なわれました。本調査の目的は、アフリカと一括りにいえども国・地域・文化・気候・宗教による違いから、どのような環境がクライアントの安心につながるのか、とりわけプライバシーに配慮した施設環境を追求することからはじまりました。今回、一連の調査の最終回として、とりわけ HIV/エイズ感染率の高いサハラ以南のアフリカの一つマラウィへの赴任を依頼し、EVAA から 3 名のボランティアが派遣されました。

エイズ対策隊員に関わらず様々な職種の隊員が、現地での問題としてエイズ対策に関わる活動を展開する中、協力隊事業としても、EVAA の調査実績および本報告書が活動のヒントとしてつながっていくことを期待する次第です。

JICA としては青年海外協力隊やシニア海外ボランティアの OB/OG と手を組み、より国際協力の多様性を模索して行きたいと考えています。今回ご協力頂いた EVAA の皆様方におかれては、青年海外協力隊として派遣されていた期間中のみならず、日本に帰国しそれぞれの生活に就いた後も、JICA と密に連絡を取って下さり、結果、このように非常に充実した立派な報告書をまとめて頂いたことに深い謝意を表するとともに、今後、この示唆に富む事例を JICA ボランティア派遣中の各国で、是非とも積極的に共有したいと考える所存であります。

平成 20 年 9 月

独立行政法人国際協力機構

青年海外協力隊事務局長 大塚正明

EVAA はしがき

アフリカ諸国において 1980 年代後半から急激に広がるエイズ発症事例に対し、各国は HIV/エイズを国家的災厄とし、国家事業としてその撲滅に取り組んでいる。

そして、わが国は、アフリカ HIV/エイズ対策へのもっとも重要な支援として、VCT(Voluntary Counseling and Testing：自発的なカウンセリングと検査)センターへの協力事業を行っているが、その一環として、国際協力機構（JICA）のシニア海外ボランティアとして、第一回目は当会より 5 名の建築家がケニアへ派遣（平成 18 年 3 月 7 日～4 月 8 日）され、続いて第二回目は 3 名の建築家がガーナに派遣（平成 19 年 3 月 19 日～4 月 19 日）され、第三回目は建築家 2 名と JOCV プログラムオフィサー 1 名がセネガルに派遣（平成 20 年 1 月 29 日～2 月 29 日）された。今回は一連の調査最終回として、当会より 2 名の建築家と 1 名のプログラムオフィサーが平成 20 年 3 月 29 日から 4 月 7 日迄の約一ヶ月間マラウイに派遣された。

派遣の目的は、ケニア・ガーナ・セネガルと同様、既存の VCT センターについて、施設計画における調査・評価・提言を行うことであった。とりわけ、施設のカウンセリングルームや待合室などの平面計画・構成・仕様について、「クライアントの視線」に立ち、プライバシー、心理的安心感といった観点で、既存状況を分析、評価することが求められた。

調査団員は、当会からの建築家 2 名とエイズ対策 1 名の合計 3 名に、JOCV よりエイズ対策 1 名を加えた 4 名が、マラウイ各地で活動中のエイズ対策隊員の参加を得て、19 ヶ所の VCT センターを訪問し、実測・撮影・聞き取り調査のうえ、現地カウンセラーとともにその場で出来る費用を掛けないで行える改善方法を考え提言し、共同で改良作業を実施した。

帰国後、施設の現状・特徴を分析・評価した上で、改善への提言や具体例をまとめたのが本報告書である。本書は調査を行った全ての VCT センターを対象とし、短期間の派遣で得られた VCT の現状と、それらに対する建築的視点からの助言、作業内容を「ファクトシート事例編」として示すこととした。

本書が、先の 3 カ国の報告書と共に、わが国のアフリカにおける HIV/エイズ対策への効果的な基礎資料として、VCT センターサービスの改善と強化に多少なりとも寄与できれば望外の喜びである。

最後に、本活動にかかるマラウイ派遣の機会をいただいた青年海外協力隊事務局(JOCV)、マラウイ側での受け入れと訪問先などの手配にご尽力いただいた JICA マラウイ事務所、訪問先の JOCV 隊員とカウンセラーの皆様、ムジンバ県エイズ対策委員会関係者の皆様に対して、ここに深く御礼を申し上げます。

平成 20 年 9 月

特定非営利活動法人 都市計画・建築関連 OV の会

EVAA (Ex-Volunteers Association for Architects)

事務局長 鈴木 忠博

略語一覧[英文]

略 語	正式名称	日本語訳
ARV	Anti-Retroviral drug	抗レトロウイルス薬
ART	Anti-Retroviral Therapy	抗レトロウイルス療法
CAC	Community AIDS Committee	地域エイズ対策委員会
CBO	Community Based Organization	地域住民組織
DAC	District AIDS Committee	県エイズ対策委員会
DACC	District AIDS Coordinating Committee	県エイズ対策局
DFID	Department of International Development	
FFF	Family Federation of Finland	
FHI	Family Health International	
HACI	Hope for African Children Initiative	
HTC	HIV Testing and Counseling	前後にカウンセリングを伴った HIV 抗体検査
IEC	Information Education Communication	情報教育コミュニケーション活動
JOCV	Japan Overseas Cooperation Volunteer	青年海外協力隊
MSI	Marie Stops International	
NAC	National AIDS Committee	国家エイズ対策委員会
NASFAM	National Smallholder Farmers' Association of Malawi	
NORAD	Norwegian Agency for Development	
PMTCT	Prevention of Mother to Child Transmission	母子感染予防
SIDA	Swedish International Development Cooperation Agency	
UNFPA	United Nations Fund for Population Activities	国連人口基金
USAID	States Agency for International Development	米国国際開発庁
VAC	Village AIDS Committee	村エイズ対策委員会
VCT	Voluntary Counseling and Testing	自由意志に基づき前後にカウ セリングを伴った HIV 抗体検査
WV	World Vision	

目 次

JICA 序文

EVAA はしがき

略語一覧[英文]

マラウイ地図

1.	調査概要	1	
1.1.	調査の背景	1	
1.2.	調査の目的と方針	2	
1.3.	調査団の構成	3	
1.4.	調査日程	4	
1.5.	調査の方法	5	
1.5.1.	調査の方法と実施内容	5	
1.5.2.	提言・改善実施上の留意点	5	
1.6.	調査対象施設	6	
2.	調査結果概要	7	
2.1.	建築の視点改善項目の説明	7	
1.	建物名表示	10.	室内塗装色
2.	動線表示	11.	窓の高さ
3.	待合室の位置	12.	窓下目隠し(塗装、カーテン、紙)
4.	時間表示	13.	間仕切り
5.	掲示物	14.	5S 概念
6.	室名表示	15.	目隠し(植栽、壁)
7.	扉の開閉方向	16.	スロープ
8.	扉の開閉管理	17.	その他 (採光)
9.	家具配置		
2.2.	部屋・場所別改善 / チェックポイント	10	
1.	外構	10	
2.	待合室	11	
3.	カウンセリング・検査室	12	

3. ファクトシート（実践改善事例）13

サイト 1:	TV1	トビラーネ ムジンバ	16
サイト 2:	TV2	トビラーネ ライプライ	22
サイト 3:	TV3	トビラーネ ジェンダ	25
サイト 4:	BLM1	バンジャラムツゴロ ムジンバ	29
サイト 5:	BLM2	バンジャラムツゴロ カタベイ	31
サイト 6:	HC1	マニャムラ保健センター	36
サイト 7:	HC2	エンフェニ保健センター	37
サイト 8:	HC3	ムフジュ地域病院	38
サイト 9:	MHP1	エンヴァンゲーニ教会病院	39
サイト 10:	MHP2	セントパトリックス病院	42
サイト 11:	MHP3	エクウェンデーニ教会病院	44
サイト 12:	MHP3'	バオラ(エクウェンデーニ教会病院アウトリーチサイト)	46
サイト 13:	MHP4	カテテ教会病院	47
サイト 14:	DHO1	ムジンバ県病院	50
サイト 15:	DHO2	ルンピ県病院	52
サイト 16:	CBO1	ファサニ CBO	56
サイト 17:	CBO2	マウラオエイズ対策協会	57
サイト 18:	CBO3	ルウェレジエイズ対策委員会	59
サイト 19:	P1	ムジンバ刑務所	66

【Box-1:クライアントの人権保護とサービスの向上】	20
【Box-2:サービス向上のための意見箱】	30
【Box-3:アクセスしやすい施設位置とは・・・】	39
【Box-4:多目的機能によるアクセス改善効果】	45
【Box-5:地域住民の保健知識向上のために】	49
【Box-6:クライアントの立場に立って施設を見てみよう】	62

【添付資料】

1. 気づきのカード.....	68
2. EVAA 紹介.....	73

室名用語凡例

略語	英 語	日本語
D-R	DELIVERY ROOM	分娩室
E-R	ENLIGHTEN ROOM	啓発室
LB	LABORATORY	研究所 / 実験室
M-R	MEETING ROOM	会議室 / ミーティング室
OF	OFFICE	事務室
O-G	OB-GYN / (Midwife)	産科 / 婦人科(助産師)
PH	PHARMACY	薬局
T-R	TREATMENT ROOM	処置室
W-R	WAITING ROOM	待合室
BT-R	BLOOD TEST ROOM	血液検査室
COR	CORRIDOR	廊下
C-R	COUNSELING ROOM	カウンセリング室
CY	COURTYARD	中庭 / コートヤード
C:T-R	COUNSELING : TESTING ROOM	カウンセリング：検査室
RE	RECEPTION	受付
ST	STORE(SHED)	倉庫 / 収納庫
R:W-R	RECEPTION : WAITING ROOM	受付：待合室

家具等用語凡例

略語	英 語	日本語
BC	DRAW BLOOD CHAIR	採血用椅子
BD	BED	ベッド
BN	BENCH	ベンチ
BS	BOOKSHELF	本棚
C	CHAIR	椅子
CB	CABINET	キャビネット
CL	CLIENT CHAIR	クライアントの椅子
CO	COUNSELOR CHAIR	カウンセラーの椅子
CT	CURTAIN	カーテン
D	DESK	デスク
DR	DOOR	ドア
NB	NOTICE BOARD	掲示板
RF	REFRIDGERATOR	冷蔵庫
S	SCREEN	スクリーン/ついたて
S.D	SCREEN DOOR	スクリーン戸
SK	SINK	流し台 / シンク
T	LOW TABLE	テーブル
TC	TRASH CAN	ゴミ箱
WT	WATER TANK(FEED TANK)	水槽

マラウイ地図



800184 (A04821) 4-85

1. 調査概要

1.1. 調査の背景

平成 17 年 11 月、VCT¹ (Voluntary Counseling and Testing) センター (VCT センタ) への建築的サポートの可能性にかかる協議が、JICA 本部において、国際協力機構 (JICA) ケニア、セネガル事務所と JICA 本部とを繋ぐ TV 会議で行われた。

会議には、NPO 法人都市計画・建築関連 OV 会 (通称：EVAA (Ex-Volunteers Association for Architects)) から会員 3 名が参加した。

ケニア、セネガルの VCT センター施設が抱える問題点として、老朽化や建築的環境改善が関係者間で共有され、EVAA 側は VCT センターの持つ施設の特異性、特に施設利用者 (以下、クライアントとする) に対する「プライバシーの保護」、「安心感」を重視した施設改善の必要性を再認識するに至った。その後、EVAA 側は、現状の VCT センターでも、多くの費用をかけずに出来るプライバシー保護などの改善例として、ドアの改善や家具の移動などを提案することで、問題点の解決を目指してきた。

こうした経緯により、第 1 回目の VCT センター現地調査として、平成 18 年 3 月 7 日から 4 月 8 日までの約 1 ヶ月間、JICA シニア海外ボランティア (SV) として EVAA 会員 5 名がケニアへ派遣された。そして、ケニアの調査結果を教訓、提言として会独自の報告書としてまとめ、平成 19 年 3 月 19 日から 4 月 19 日まで第 2 回目の現地調査としてガーナへ、さらに平成 20 年 1 月 29 日から 2 月 29 日まで第 3 回目の現地調査としてセネガルへ EVAA 会員が派遣され、ともに活動成果を報告書にまとめている。

本マラウィへの派遣は、エイズ対策を目的とした JOCV のグループ派遣が行われている北部地区ムジンバ県南部地域において、増加する VCT センターへのサポート強化が必要であることから現地調査に至り、平成 20 年 3 月 30 日から 5 月 7 日までの約 1 ヶ月間、第 4 回目の現地調査として EVAA 会員 3 名 (うち建築家 2 名、プログラムオフィサー 1 名) と JOCV プログラムオフィサー 1 名がマラウィに派遣された。

調査対象地は、地方自治地域開発省ムジンバ地方自治体 (県エイズ対策局：DACC²と連携) に駐在する JICA フィールド調整員飯野氏の調整によって選定された。そのうちわけは、JOCV プログラムオフィサーが新規派遣されたサイトを含む NGO 運営 VTC センター 5 サイト、無償資金協力「地方保健医療施設改善計画」(平成 19 年度) で施設および医療機器が整備中であり、一部施設で JOCV も活動中である保健センター 3 サイト、県病院 2 サイト、JOCV 派遣はないが優れた施設を有する教会系病院 5 サイト (うち 1 サイトは出張検査先)、地域の住民組織により運営され、そのサポートに JOCV も関わる CBO³ サイト、そして JOCV が HIV 啓発音楽活動による収益でムジンバ刑務所内に建設された HTC センター 1 サイトの計 19 サイトで調査を行った。

なお、昨今のエイズ対策の動向によると、カウンセリング後自発的に HIV 抗体検査を受ける VCT

¹ 「自由意志に基づき前後にカウンセリングを伴った HIV 抗体検査」。

² District ADIS Coordinating Committee

³ Community Based Organization

(Voluntary Counseling and Testing) から、母子感染予防検査 (PMTCT) のようにカウンセリングと検査を同じに受けるようにする HTC (HIV Testing and Counseling) という新しいアプローチへと移行している。2008 年 4 月マラウィでの調査時点でも、VCT センターから HTC センターへと移行している途中であるため、調査対象施設は「VCT」と「HCT」が混在する。本報告書では、「HTC センター」として統一し、「前後にカウンセリングを伴った HIV 検査施設」と定義することとする。

1. 2. 調査の目的と方針

本調査では、ケニア・ガーナ・セネガルで実施した調査結果を踏まえ、マラウィ国における HIV / エイズ対策事情に則した上で、HIV 検査を実施する施設において、クライアントのプライバシー保護を重視した施設改善に向けての提言活動を行うことを目的とした。そして、以下 4 項目を調査方針とした。

- クライアントが安心して利用できる施設を目指した改善案を策定する。
- 費用を極力かけないで行える改善法を提言する。
- 他国、マラウィ国における類似施設での提言結果を反映した改善案を策定する。
- 施設関係者との間で意思疎通を図り、相手が十分に理解、納得した内容を提言として共有する。

1. 3. 調査団の構成

日本からは、JICA シニア海外ボランティア（SV）として EVAA 会員 2 名と JOCV としてプログラムオフィサー名の計 4 名が団員として派遣された。マラウィ国側からは、本ミッションのカウンターパート（C/P）として NGO トビラーネから 2 名、ムジンバ県病院から 1 名、計 3 名の協力を得た。団員リスト、および調査日程は、以下の通りである。

表-1 団員リスト

メンバー名		所属先	調査日程
1. 平田 保次	調査団員	SV / EVAA	4/8～4/29
2. 小泉 新一	調査団員	SV / EVAA	4/8～4/29
3. 長田 有加里	プログラム オフィサー	JOCV / EVAA	4/8～4/29
4. 山下 和也	プログラム オフィサー	JOCV	4/8～4/29
5. Mr. Bisweck Tembo	現地団員 (C/P)	Towvirane AIDS Supervisor	4/14
6. Ms. Nyoma D. Moyo	現地団員 (C/P)	Mzimba DHO VCT Counselor	4/14～16
7. Mr. Vincent Ngulube	現地団員 (C/P)	Towvirane AIDS Coordinator	4/18

1. 4. 調査日程

本調査は、以下の日程で現地調査を行った。

月 日	時間	サイト No. *	活動内容	備考
4/8 (火)			サイト視察・表敬 (8 サイト) HC Endindeneni / HC Manyamula / CBO1 Fasani / MHP1 Embangweni / MHP4 Katete / TV3 Jenda / HC Jenda / TV3 Jenda	飯野 FC 同行
4/9 (水)	午前 午後	TV1	ムジンバ地方自体・副知事表敬 県エイズ対策局 (DAC) 表敬 Towvirane NGO オフィス表敬 Towvirane Mzimba 調査 (灘隊員活動先)	飯野 FC 同行 〃 〃 灘隊員同行
4/10 (木)	午前 午後	HC1 CBO1	Manyamula Health Center 調査 Fasani CBO 調査	
4/11 (金)	午前 午後	BLM1 P1	Banja La Mtsogolo Mzimba 調査 Mzimba Prison 調査	飯野 FC 同行
4/14 (月)	午前 午後	HC2 CBO2	Emfeni Health Center 調査 Emfeni CBO 調査 (西田隊員活動先)	西田・田中隊員 同行
4/15 (火)	午前 午後	CBO3	Luwerezi CBO 調査(田中隊員活動先)	田中 JOCV 同行
4/16 (水)	午前 午後	MHP1	Embangweni Mission Hospital Tikoleraneko CBO 訪問 (VCT 導入希望) (中村隊員活動先)	田中・中村隊員 同行
4/17 (木)	午前 午後	DHO1	Mzimba DHO (黒田隊員活動先)	飯野 FC・黒田隊 員同行
4/18 (金)	午前 午後	TV2	Towvirane Raiply 調査 Nkatabay 県へ移動	
4/21 (月)	午前 午後	BLM2	Banja La Mtsogolo Nkatabay 調査	西田・平田隊員 同行
4/22 (火)	午前 午後	HC3 MHP2	Mhuju Rural Hospital 調査 (岩佐隊員活動先) St. Patrick's Health Center 調査	飯野 FC 西田・中村・岩佐 隊員同行
4/23 (水)	午前 午後	DHO2	Rumphu DHO 調査 (坂主隊員活動先)	飯野 FC 西田・中村隊員 同行
4/24 (木)	午前 午後	MHP3 MHP3'	A 班 : Ekwendeni Mission Hospital 調査 B 班 : Vaula Outreach 調査	B 班: 西田隊員同行
4/28 (月)	午前	MHP4 TV3	A 班 : Katete Mission Hospital 調査 B 班 : Towvirane Jenda 調査	
4/29 (火)	午前		県エイズ対策局事務所報告会 (出席:ムジンバ県病院長兼県エイズ対策 局長 Mr.Kawai, Towvirane スーパーバイザ ー Mr.Kaziso)	飯野 FC 渋谷・深井・黒田 隊員参加
5/2 (金)	午前		マラウィ事務所報告	

* サイト No.は、本調査において便宜的に名前付けしたものである

1. 5. 調査の方法

1. 5. 1. 調査の方法と実施内容

本調査対象施設は、NGO・住民組織（Community Based Organization、以下 CBO とする）・医療機関等、施設の運営形態によって施設規模・サービス内容も異なるが、調査は一貫して以下 4 つの方法で行なった。

調査方法	内容
計測と図面化	HIV 検査関連諸室と敷地全体の計測を行ない図面化することで提言活動の参考資料とする。
写真撮影	HIV 検査関連諸室と建物全体の写真撮影を行ない、提言活動の参考資料とする。
聞き取り	施設概要、プライバシー保護にかかる施設関係者の意識、具体的な対応策などについて、聞き取りを行なう。
提言、改善実施	上記による施設調査後、先方関係職員との十分な意見交換の上、提言を示し、簡易な改善についてはその場で実施する。

1. 5. 2. 提言・改善実施上の留意点

- ① 施設の良い点を探し、まず褒める。(複数探すこと)
- ② クライアントの視点で考えてもらう。
 - カウンセリングルームでは、「クライアントはどこに座り、カウンセラーはどこに座るのか？」を聞き、カウンセラーにクライアントの席に座らせてみる。クライアントが周りを見渡したときに感じる不安について一緒に考える。待合室等でも同様の手順が好ましいが、時間が無い場合はその場所での説明を行う。
- ③ その上で改善の方法をカウンセラー自らに考えさせる。
- ④ お金をかけなくてもできる改善案を共に考える。
 - 改善できない前提条件を「資金不足」とさせない。
- ⑤ 必要に応じて、他国およびセネガル他地域での実施例を紹介し、良い点、悪い点への認識を共有する。
- ⑥ 家具の移動、窓の目隠しなど、簡易な材料によりその場で改善できることは、実施する。
- ⑦ そして改善後の状況を先方の視点で確認してもらい、受け入れられるのであれば、お互いの協力と成果を讃えあう。

1. 6. 調査対象施設

本調査においては、NGO トビラーネサイト (TV) : 3 サイト、NGO バンジャラムツゴロウサイト (BLM) : 2 サイト、保健センター (HC) : 3 サイト、教会系病院 (MHP) : 5 サイト、県病院 (DHO) : 2 サイト、CBO サイト (CBO) : 3 サイト、その他 (刑務所) 1 サイトの計 19 サイトの調査を行った。(表-2)

表-2 調査対象施設一覧

サイト No.*	サイト名	県名	サイト数
NGO サイト 《TV/BLM》			
TV1	Towvirane Mzimba	Mzimba	5
TV2	Towvirane Raiply	Mzimba	
TV3	Towvirane Jenda	Mzimba	
BLM1	Banja La Mtsogolo Mzimba	Mzimba	
BLM2	Banja La Mtsogolo Nhkatabey	Nhkatabay	
保健センター 《HC》			
HC1	Manyamula Health Center	Mzimba	3
HC2	Emfeni Health Center	Mzimba	
HC3	Mhuju Loral Hospital	Rumphi	
県病院 / 教会病院 《MHP / DHO》			
MHP1	Embangweni Mission Hospital	Mzimba	7
MHP2	St.Parick's Hospital	Rumphi	
MHP3	Ekwendeni Hospital	Mzimba	
MHP3'	Ekwendeni Vaola (Out Reach)	Mzimba	
MHP4	Katete		
DHO1	Mzimba District Hospital	Mzimba	
DHO2	Rumphi District Hospital	Rumphi	
住民組織 《CBO》			
CBO1	Fasani	Mzimba	3
CBO2	Emfeni	Mzimba	
CBO3	Luwerezi	Mzimba	
《その他(刑務所)》			
P1	Mzimba Prison	Mzimba	1
計			19

* サイト No.は、本調査において便宜的に名前付けしたものである。

2. 調査結果概要

2.1. 建築の視点改善項目の説明

クライアントのプライバシー保護と快適性を考慮した施設を策定する上で、十分な認識と配慮が必要である観点を「改善項目」として以下 17 の項目に抽出した。各項目についての内容を説明し、その項目が含まれるサイト例を紹介している。また各項目の内容で、関連のあるものに関しては相互参照として（→）内に示した。

	改善項目	内 容	サイト例
1	建物名表示	施設名称を外観に明確に示すことで、クライアントはその場所にサービスがあることを知り、「アクセスする」という選択肢を持つことができる。建物名表示から自分で情報を取れることで、周りに知られたくないときは誰に聞かなくても行けることができる。ただし、その施設へアクセスする目的がはっきりとわかることで都合が悪いときは、その他の機能と並列に記す工夫をすることが望まれる。（→17. その他(多目的機能)）	TV1(P.16) TV2(P.22) TV3(P.25) BLM1(P.29) MHP2(P.42) CBO2(P.57) CBO3(P.59)
2	動線表示	施設構内または館内において、誰に聞くこともなく安心して目的地まで到達できるよう、自らの進む方向を示す動線表示を行なう。待合室、カウンセリング室、検査室間のクライアントの動線を十分に考慮する。また、HIV 検査を受けたクライアントが他のクライアントとすれ違うことなく施設内を移動できることは、クライアントにとっての安心感につながる。	BLM2(P.31) HC1(P.36) HC2(P.37) MHP1(P.39) MHP4(P.47) DHO1(P.50) DHO2(P.52)
3	待合室の位置	カウンセリング室、検査室前の通路などを利用した待合スペースは、カウンセリングを妨げる可能性があるだけでなく、各室内の音が待合室へ漏れる恐れがある。また、外部に無造作に設けられたスペースは、周囲の視線と直接交錯することになり、ともに待合中のクライアントにとっては不安感の募らせる要因となる。したがって、待合室は他室とは独立して設ける、また、周囲の視線をさえぎる位置での設置により、クライアントの安心感は助長する。	TV2(P.23) HC3(P.38) MHP3(P.44) CBO1(P.56)
4	時間（サービス）表示	クライアントに対して、混雑する時間帯を避けて利用できるなどの安心感を与えるため、施設の開館時間を示す時間表示を行う。	TV1(P.16) TV2(P.22) BLM1(P.29) MHP2(P.42) MHP4(P.47) DHO2(P.52)

	改善項目	内 容	サイト例
5	掲示物	施設内に掲示するポスターやパンフレットは、クライアントへ情報を届けるために有効な手段である。読みやすく、容易に理解できるよう配慮することで、待合中のクライアントの不安感を和らげることができる。	TV1(P.17) TV3(P.26) BLM1(P.30) DHO2(P.53) P1(P.66)
6	室名表示	動線表示同様、施設内において誰に聞くこともなく安心して目的とする室へアプローチできるよう、各室の入り口にはクライアントが容易にできる室名表示を行なう。	TV1(P.17) MHP1(P.40) MHP4(P.48)
7	扉の開閉方向	扉を開けた際、室内のクライアントの位置が直接判別できないように扉の開閉方向を考慮する。クライアントにとって、万一急に扉が開けられても、相手の姿が直接視覚に入らなければ、不安感の度合いは低下する。開閉方向の変更による改善が不可能であれば、「目隠し」や「家具配置」の変更で対応することが可能である。(→9. 家具配置 15. 目隠し)	TV1(P.18)
8	扉の開閉管理	ドア前に使用中であれば『使用中』、そうでなければ『入室可』等の表裏表示プレート（紙でも可）をかけておくことで、クライアントに部屋の状態を知らせる。カウンセリング中、不慮にドアが開くことを防ぐことができる。	TV1(P.17) MHP4(P.48)
9	家具配置	扉を開けた際、室内のクライアントと視線が交錯しないように、クライアントの座る位置と方向を考慮した家具配置を行う。扉の開閉方向同様、相手の姿が直接視覚に入らなければ、不安感の度合いは低下する。	TV3(P.27) MHP2(P.43) CBO3(P.60)
10	室内の塗装色	明るい塗装色は快適性と清潔感を助長し、クライアントにとって安心感が増す。	TV1(P.19) MHP1(P.40)
11	窓の高さ	上記（10. 室内塗装色）同様の理由により、窓部を高い位置に設けることでガラス面からの採光を確保しつつ、外部からの視線をさえぎることができ、室内の快適性とクライアントの安心感を維持する。	DHO1(P.50)
12	窓下目隠し	室内のクライアントにとって、外部を行きかう他者と窓ガラスを通して視線が合うことは不安感の増大にもつながり、避けなければならない。一方、完全に閉め切った状態では、採光がとれず、快適性に欠ける。したがって、ガラス面下部を塗装する、カーテンをかける、紙を貼るなどの方法により、ガラス面上部からの採光を確保しつつ、外部からの視線をさえぎることで、室内の快適性とクライアントの安心感を維持する。	MHP1(P.41) MHP2(P.43) MHP3(P.45) MHP3'(P.46) DHO2(P.53) CBO2(P.58) CBO3(P.61)

	改善項目	内 容	サイト例
13	間仕切り	検査室内における、適切なつい立、カーテンでの間仕切りは、クライアントにとってもっとも効果的なプライバシー保護につながる。	MHP4(P.48) DHO1(P.51)
14	5S 概念	施設維持管理上の「整理」、「整頓」、「清潔」、「清掃」、「しつけ」意識を啓発することで、クライアントにとって、安心、快適に利用できる施設環境となる。 各々の英語/仏語は、「整理: (Sort)」「整頓: (Set)」「清掃: (Shine)」「清潔: (Standardize)」「しつけ: (Sustain)」である。	TV1(P.19) TV2(P.23) HC2(P.37) DHO1(P.51) DHO2(P.54) CBO2(P.58) P1(P.66)
15	目隠し (植栽、囲壁)	建物周囲に植栽を施す、周壁の高さを増すことで、室内のクライアントは外部との視線の交錯をさけることができ、安心感を保てる。	TV2(P.24) BLM2(P.32)
16	スロープ	車椅子などを利用する障害者のクライアントにとって、他人の手を借りることなく容易に施設へアプローチすることができ、安心して利用することができる。	BLM2(P.32) MHP4(P.49)
17	その他 (採光)	施設計画、特に屋根部に工夫をすることで、電気がなくとも室内を明るくすることができる。	BLM2(P.32) CBO1(P.56)

2.2. 部屋・場所別改善 / チェックポイント

クライアントが、HIV 検査施設を訪れてから検査結果を受け取るまでに接する部屋・場所を、主に【外構／待合室／カウンセリング室・検査室】の3つとした。それぞれについて、プライバシー保護と快適性の観点からクライアントに対して配慮したい点を「改善ポイント」とし、それを実現するための項目を「チェックポイント」として抽出した。「チェックポイント」には、「2.1 建築の視点改善項目の説明」にて紹介した、関連のある「改善項目」を適応している。

1. 外構



改善ポイント

多くの人がその施設のサービスを周知することが、施設へのアクセスにつながる第一歩である。サービスを必要とする人が施設へ行く選択肢を持てるように、情報提供・表示に配慮したい。また施設は、クライアントが安心して快適にサービスを受けられるように守られた場所である必要がある。

チェックポイント

- ① その建物が何であることを示す建物名は表示されているか **1. 建物名表示**
- ② HIV 検査サービスにアクセスしやすいような表示はされているか **2. 動線表示**
(サービスの有無を表す看板、HIV 検査の手順、敷地内でのサービスの位置、等)
- ③ サービス内容・サービス時間は表示されているか **4. 時間(サービス)表示**
- ④ 安心して施設内でサービスが受けられるように、外からプライバシーが保護され安全でいられる環境を有しているか **15. 目隠し**
- ⑤ 車椅子を利用する障害者が、一人で施設を利用できるようスロープが設置されているか **16. スロープ**

改善項目*

1. 建物名表示 2. 動線表示 4. 時間(サービス)表示 15. 目隠し 16. スロープ

* 各改善キーワードの説明は、「2.1 建築の視点改善項目の説明」参照

2. 待合室



改善ポイント

クライアントの一般的な順路は（受付）→待合室→カウンセリング室→検査室となる。施設に入り、最初に訪れるスペースである待合室は、動線や音がカウンセリングの妨げにならないよう、その他諸室との位置関係に配慮することが重要である。また待合室は、パンフレットやラジオ、コースリー（談話・セミナー）を通じて、保健衛生の知識を普及させるのにも有効な場となる。快適にそしてプライバシー保護の観点からも安心して過ごせるように、待合室の位置や日よけ、目隠し等の工夫があるとよい。

チェックポイント

- ① カウンセリング室、検査室に近すぎず、適度な距離を確保しているか
- ② 待合室は、人目につき過ぎず快適な環境を有しているか **3. 待合室の位置**
- ③ 他の利用者の動線と重ならない位置にあるか
- ④ 待合室→カウンセリング室→検査室は連続した順路になっているか
- ⑤ その順路はクライアントにとってわかりやすいか、またはわかりやすいような情報揭示がされているか **2. 動線表示**
- ⑥ 待っている間に保健に関する情報が得られるなど、場所が有効に活用されているか **5. 掲示物**

改善項目*

2. 動線表示 **3. 待合室の位置** **5. 掲示物**

* 各改善キーワードの説明は、「2.1 建築の視点改善項目の説明」参照

3. カウンセリング室 / 検査室



改善ポイント

カウンセリング室から続く検査室へのドアは、検査中に次のクライアントが入ってくる
ことのないように管理が必要である。検査室もカウンセリング室同様、クライアントが安
心して検査を受けられる快適な室内環境に配慮し、外からの視線を遮る工夫などプライバ
シーの保護を心がけたい。また、検査室では医療器具を扱うため、衛生や安全に配慮して
整理整頓（5S）が必要である。

チェックポイント

- ① 外部からの音がカウンセリングの妨げとならないよう、人の動線・待合室から適度な
距離を有しているか **2. 動線表示**
- ② カウンセリングのツールとなりうるポスターの掲示、教材の設置がされているか
5. 掲示物
- ③ クライアントが迷わず目的の部屋にアクセスできるよう、部屋名はわかりやすく表示
されているか **6. 室名表示**
- ④ クライアントが安心してカウンセリングを受けられるような環境が考えられているか
(適度な明るさ、プレッシャーを与えない壁の色) **10. 室内塗装色 11. 窓の高さ**
- ⑤ カウンセリング中に外部からの視線が気になったり、また室内から外部が気になっ
たりすることのないよう窓・扉に配慮されているか **7. 扉の開閉方向 8. 扉の開閉管理**
12. 窓下目隠し
- ⑥ 職員にとって、仕事上動線効率のよい家具配置であるか、またはクライアントにとっ
て快適な家具配置であるか **9. 家具配置**
- ⑦ クライアントが快適にカウンセリングを受けられる衛生環境・空間を有しているか
- ⑧ 検査キットや医療器具は危険のないように扱われ、または衛生的に危険のないよう
に処理されているか **14. 5S 概念**

改善項目*

2. 動線表示 5. 掲示物 6. 室名表示 7. 扉の開閉方向 8. 扉の開閉管理
9. 家具配置 10. 室内塗装色 11. 窓の高さ 12. 窓下目隠し 14. 5S 概念

* 各改善キーワードの説明は、「2.1 建築の視点改善項目の説明」参照

3. ファクトシート（実践改善事例）

調査を行った全 19 サイトから、改善提案を示しやすく、特徴的または参考となる事例をファクトシートとしてあげている。各サイトで紹介する事例において、【●】を優良事例、【●】を改善実施事例、【●】を改善必要事例として示した。

No.	サイト名	該当する建築項目	頁
《NGO による HTC センター》			
1	TV1 トビラーネ ムジンバ	1. 建物名表示 4. 時間(サービス)表示 5. 掲示物 6. 室名表示 7. 扉の開閉方向 8. 扉の開閉管理 10. 室内塗装色 14. 5S 概念 【Box-1: クライアントの人権保護とサービスの向上】	16
2	TV2 トビラーネ ライブライ	1. 建物名表示 3. 待合室の位置 4. 時間(サービス)表示 14. 5S 概念 15. 目隠し	22
3	TV3 トビラーネ ジェンダ	1. 建物名表示 5. 掲示物 9. 家具配置	25
4	BLM1 バンジャラムツゴロ ムジンバ	1. 建物名表示 4. 時間(サービス)表示 5. 掲示物 【Box-2: サービス向上のための意見箱】	29
5	BLM2 バンジャラムツゴロ カタベイ	2. 動線表示 15. 目隠し 16. スロープ 17. その他(採光)	31
《医療施設内の HTC センター》			
6	HC1 マニヤムラ 保健センター	2. 動線表示	36
7	HC2 エンフェニ 保健センター	2. 動線表示 14. 5S 概念	37
8	HC3 ムフジュ地域病院	3. 待合室の位置	38
9	MHP1 エンヴァンゲーニ 教会病院	2. 動線表示 6. 室名表示 10. 室内塗装色 12. 窓下目隠し 【Box-3: アクセスしやすい施設とは・・・】	39
10	MHP2 セントパトリックス 病院	1. 建物名表示 4. 時間(サービス)表示 9. 家具配置 12. 窓下目隠し	42
11	MHP3 エクウェンデーニ 教会病院	3. 待合室の位置 12. 窓下目隠し 【Box-4: 多目的機能によるアクセス改善効果】	44
12	MHP3' バオラ	12. 窓下目隠し	46
13	MHP4 カテテ教会病院	2. 動線表示 4. 時間(サービス)表示 6. 室名表示 8. 扉の開閉管理 13. 間仕切り 14. 5S 概念 【Box-5: 地域住民の保健知識向上のために】	47
14	DHO1 ムジンバ県病院	2. 動線表示 11. 窓の高さ 13. 間仕切り 14. 5S 概念	50
15	DHO2 ルンピ県病院	2. 動線表示 4. 時間(サービス)表示 5. 掲示物 12. 窓下目隠し 14. 5S 概念	52
《住民組織(CBO)による HTC センター》			
16	CBO1 ファサニ	3. 待合室の位置 17. その他(採光)	56
17	CBO2 マウラオ	1. 建物名表示 12. 窓下目隠し 14. 5S 概念	57
18	CBO3 ルウェレジ	1. 建物名表示 9. 家具配置 12. 窓下目隠し 【Box-6: クライアントの立場に立って施設を見てみよう】	59
《ムジンバ刑務所内の HTC センター》			
19	P1 ムジンバ刑務所	5. 掲示物 14. 5S 概念	66

1. NGO による HTC センター

■ Towvirane (トビラーネ)

- ☐ TV1 : Towvirane Mzimba
- ☐ TV2 : Towvirane Raiply
- ☐ TV3 : Towvirane Jenda

■トビラーネ (トゥンブカ語) : 英訳 [HELP EACH OTHER](#)

トビラーネ HIV/エイズ組織は、マラウィの北部地域ムジンバ県で最大のローカル NGO であり、県内に 8 つの HTC センターを有する。ムジンバ県内 320 村、人口 89,510 人を包括する。トビラーネは 1993 年、ムジンバ県病院との協力の下、「ムジンバエイズ対策グループ」と呼ばれるサポートグループからスタートし、翌 1994 年ローカル NGO に登録された。現在、包括地域には職員その他、ボランティアを含め 700 名以上が活動する。

■ Banja La Mtsogolo

(バンジャラムツゴロ)

- ☐ BLM1 : Banla La Mtsogolo Mzimba
- ☐ BLM2 : Banla La Mtsogolo Nhkatabey

■バンジャラムツゴロ (トゥンブカ語) : 英訳 [FUTURE in the family](#)

バンジャラムツゴロは、特に貧しい人々を対象として、リプロダクティブヘルスケアおよび HIV/エイズに取り組む NGO である。1987 年に設立され、DFID、UNFPA、FFF、SIDA、NORAD を通じて、イギリス政府より全面的に資金協力を受けている。また、性とリプロダクティブヘルスにおいて、イギリス有数の慈善団体である MSI がマネジメント支援、技術的なサポートを行っている。1987 年よりクリニックを開設し、現在マラウィに全土に 30 のクリニックを展開している。

■ サイト1 TV1 Towvirane Mzimba (NGO トビラーネ ムジンバ)

【改善項目】: 1. 建物名表示 4. 時間(サービス)表示 5. 掲示物 6. 室名表示
7. 扉の開閉方向 8. 扉の開閉管理 10. 室内塗装色 14. 5S 概念

1 概要

訪問日: 2008 年 4 月 9 日 午前・午後
場 所: ムジンバ県ムジンバ
HIV 検査開始時期: 2006 年
開館時間: 平日 8 時~16 時半 土曜 8 時~14 時半
出張検査: 週 3 回、固定 3 サイトへカウンセラーが 2 名ずつ訪問
ART: なし
職 員: スーパーバイザー (男-1)
カウンセラー・検査技師 (男-4 / 女-1)
クライアントの数 (2007 年): 男-1,727 / 女-2,176
特 徴: JOCV (プログラムオフィサー: 女-1) 活動中



ムジンバ県の中心、NGO トビラーネ事務局本部隣にある HTC センター。以前は事務局本部の施設内で HIV 検査を行っていたが、施設の位置が広く開いた敷地の中心であったことから、敷地奥にある旧の図書館を改修して HTC センターとした。カウンセラー養成研修を行うセミナールームも併設されており、県内 8 箇所あるトビラーネ HTC センターの中心となる施設である。

2 建築的所見での助言、改善内容

■ 事例 1 ●【優良事例】: 1. 建物名表示 4. 時間(サービス)表示

VCT センター外壁の入り口に大きな看板が付けられている。近くを通る人は、この建物が何であるかを知ることができ、開館時間を表示していることで、希望の時間帯にサービスを受けることができる。



VCT センター外壁入り口に付けられた看板

施設に入る道路脇にも案内板が立てられており、多くの人へ情報を届けることができる。



主要道路沿いに立てられた看板

■事例2●【優良事例】：5. 掲示物

検査室に掲示板が設置されており、事務連絡等の書類が整然と貼られている。

写真左下のポスターは検査キットの絵であり、マーカがどうであれば陽性/陰性か、ということを説明している。クライアントは、検査後のキットとポスター中の見本を比べて、結果に納得することができる。またカウンセラーにとっても、常時確認することで判定ミスを防ぐことにつながる。



検査室内に取り付けられた掲示板

■事例3●【優良事例】：6. 室名表示 8. 扉の開閉管理

各諸室の扉には、『カウンセリング室』、『検査室』、『コーディネーター室』という木のプレートが付けられており、クライアントはここが何の部屋であるのかを知ることができる。

紙でつくられたプレートは、現地語で『お入りください』という意味。反対側には、『入室禁止』と書かれている。このようなプレートを使うことで、クライアントは部屋が使用中か否かを知ることができ、カウンセリング中に扉が開くのを防ぐことができる。



カウンセリング室のドアに付けられたプレート

* 事例紹介 *

マラウィは木彫りの土産物が多く見られ、木工細工が盛んである。HTC センター内の室名を書いた表示プレートにも木製のものが多いが、他にもユニークなプレートも多くある。

そのうちの 하나가、HTC センター外にあるトイレにかかっていた写真右のプレートである。表示の仕方一つにもマラウィらしさが見られ、興味深い一例である。



女性トイレのプレート



男性トイレのプレート

■事例4●【改善事例】：7. 扉の開閉方向

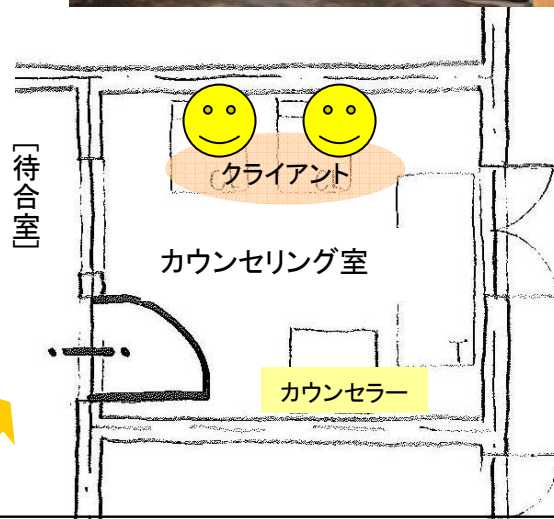
BEFORE

写真は、扉が開いたときのカウンセリング室の様子。椅子に座るのがクライアントであるが、カウンセリング中に扉が開けば、クライアントは待合室からの視線にさらされる。

椅子が2脚あり、カップルカウンセリングを行なうときは、特にプライバシーへの配慮を心がけたい。そこで、扉の開閉方向の変更を提案した。

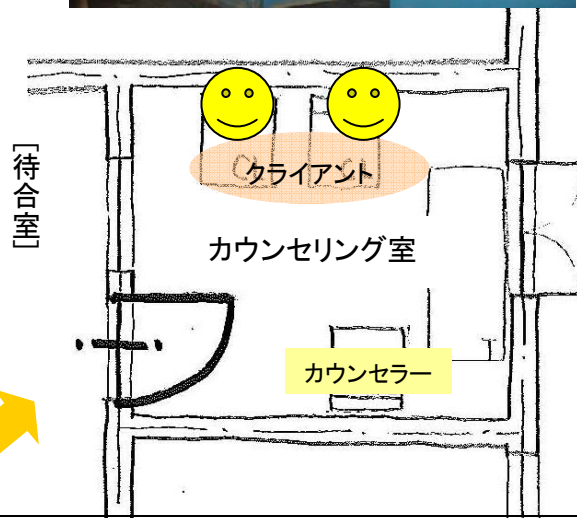


図中、矢印の位置より撮影



AFTER

扉をはずし、開閉方向を変更した。クライアントは扉の背裏に位置することになるため、扉が開いても簡単には視線にさらされなくなった。



* 作業風景 *

工具は現場にあったものを使用し、端材など材料も現場近くを探して調達した。改修の仕方は、まず団員がやって見せ、現場職員はそれに倣い一緒に作業を進めることができた。ドアの付け替えだけでなく、壊れたままになっていた鍵穴も、同時に修理を行い改善することができた。



■事例 5 ●【優良事例】／●【改善必要事例】： 10. 室内塗装色

本センターは、旧図書館を改修してつくられた。HIV 検査のカウンセリングに相応しいように塗装が塗り直されているが、以前は写真左のように暗い黒色であった。

カウンセリングにより相応しい環境を提供するために工夫されている。今後、左の黒い壁も他と同じ青色に塗り直される予定である。



検査室(塗り直し前)



待合室(塗り直し後)

■事例 6 ●【優良事例】： 14. 5S 概念

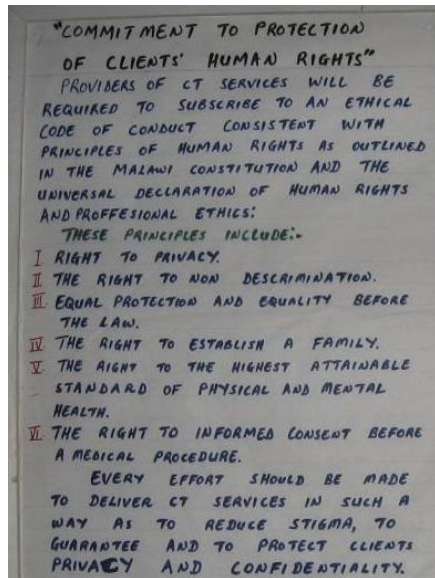
HTC センター敷地内に、写真にある焼却炉が設置されている。穴は旧井戸を使ったもので、深さは 5 メートル以上と深い。焼却炉本体部分はドラム缶に穴を開けたもので、中で燃やした灰が下の穴に落ちるようになっているため、ゴミの焼却と同時に灰や燃えカスが周囲に散乱することがないため安全である。

同様の焼却炉が数機作られており、他の HTC センターに配布されることになっている。



HTC センター横に設置されている焼却炉

Box-1: クライアントの人権保護とサービスの向上



クライアントの人権保護に対する提言



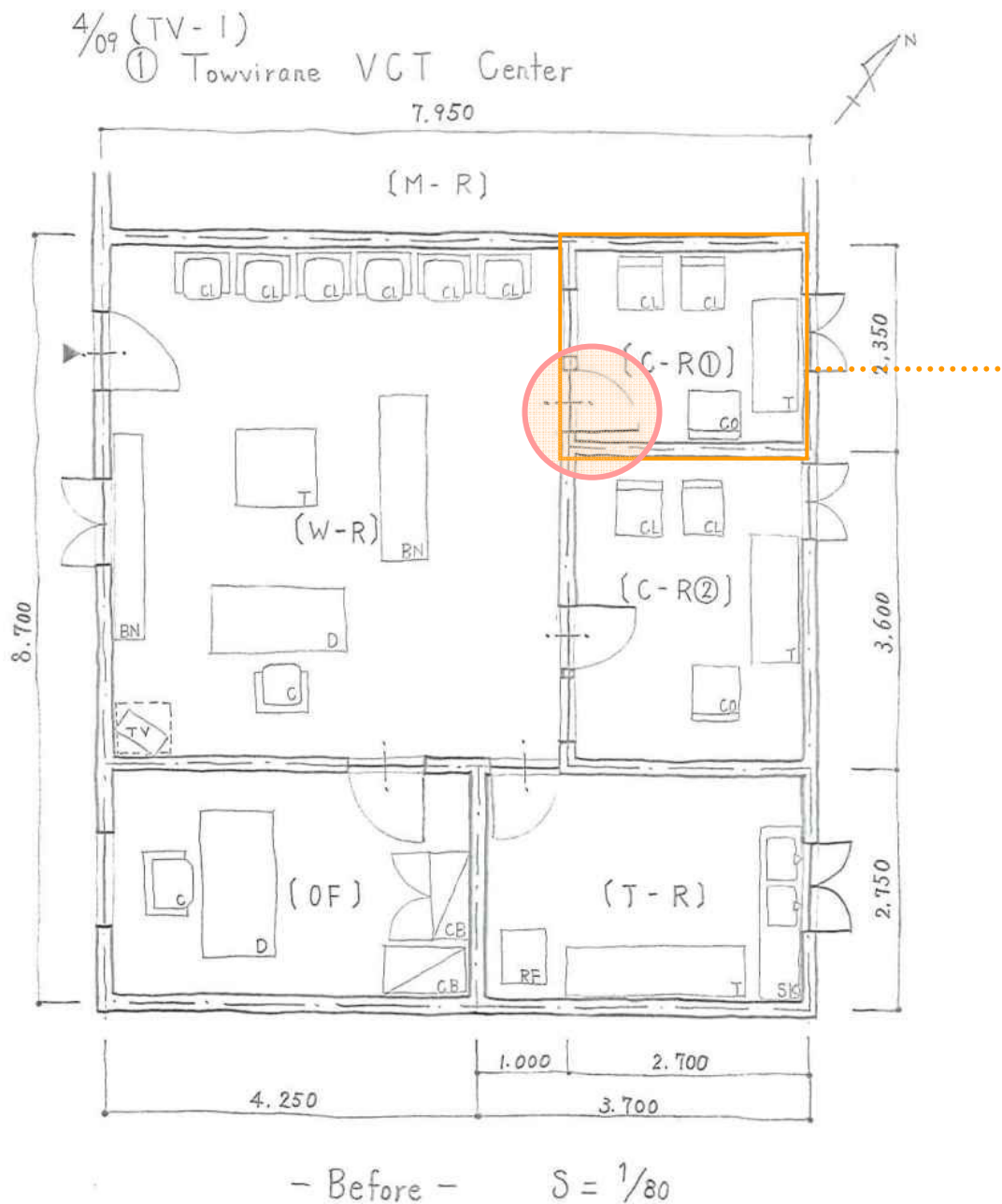
待合室に置かれた水のサービス
が待ち時間にやさしい

カウンセリング室内には、写真のように「クライアントの人権保護に対する提言」が記されたポスターが張られている。カウンセラーに、「クライアントに対してどのような環境を提供することが必要か」という質問をしたときにも、「性別・年齢・職業に関係なく、どんなクライアントに対しても尊敬の態度で接する」「開館時間を厳守する」という声が聞かれた。またトビラーネでは、クライアントに対して「サービス評価アンケート」を実施しており、職員の対応や施設環境を質問項目に挙げている。これらの結果を月 1 回のミーティングで共有し、施設のサービス向上に努めているそうである。調査時、職員にインタビューをしている最中にクライアントが来ると、何よりもクライアントへの対応を優先して動く職員がとても印象的であった。

このような姿勢の一つひとつが、職員・施設に対する信用につながり、カウンセリングでよりクライアントの声を聞き出すことができ、さらには人々の施設へのアクセスを増やすことにもつながっていくのではと期待される。

(NGO トビラーネ・スーパーバイザーへのインタビューより)

TV1 Towvirane Mzimba (NGO トビラーネ ムジンバ) 平面図



【凡 例】

T-R: 処置室

W-R: 待合室

C-R: カウンセリング・検査室

OF: 事務室

M-R: 会議室

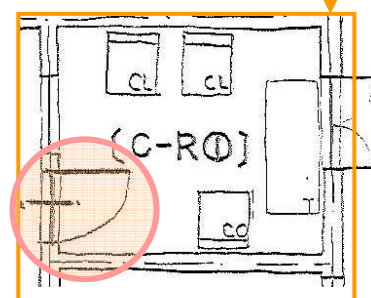
CO: カウンセラーの椅子

CL: クライアントの椅子

T: テーブル

他家具: 巻頭「家具等用語凡例」参照

【建具配置変更後】



■ サイト 2 TV2 Towvirane Raiply (NGO トビラーネ ライプライ)

【改善項目】: 1. 建物名表示 3. 待合室の位置 4. 時間(サービス)表示 14. 5S 概念
15. 目隠し

1 概要

訪問日: 2008 年 4 月 18 日午前
場 所: ムジンバ県ライプライ
HIV 検査開始時期: 2006 年 2 月
開館時間: 平日 7 時半~12 時、13 時~17 時
出張検査: 毎週土曜日 (固定の 3 村)
ART: 隣接する保健センターで処方
職 員: カウンセラー・検査技師 (男-1/女-1)、ボランティア数名
クライアントの数 (月平均): 120~150



ムジンバ中心から車で 30 分のところに位置する。街に入ってすぐ、ムジンバ北部の林業地帯から集まる木材の製材工場すぐ隣にある。インド人経営であるこの工場には、マラウィ全土からだけでなく、ザンビアなどの近隣国からも多くの労働者が集まる。保健センターには製材会社から寄付されたコンテナが増設して使われており、HTC センターにもコンテナの一つが使われ HIV 検査が行われる。HTC センターは保健センターの裏側に位置しているため道路からは見えず、人目につかず HTC センターにアクセスすることができ、プライバシーが保護されているといえる。

2 建築的所見での助言、改善内容

■ 事例 7 ●【優良事例】: 1. 建物名表示 4. 時間(サービス)表示

国道沿いに立てられており、車で通るときにもよく目に入る。写真右がライプライの保健センターの看板、写真左がトビラーネの HTC センターの看板である。

トビラーネ HTC センターの看板には、開館日時が記されている。



左: HTC センター看板 / 右: 保健センター看板

■事例 8●【改善必要事例】： 3. 待合室の位置

右奥のコンテナが HTC センター。保健センターの裏側と写真右に見えるコンテナ部屋の間に広場があり、ここで順番を待つ人が多い。PMTCT 検査を待つ妊婦が多く、青少年等の妊婦以外の人がアクセスしやすいように、プライバシーが保護される待合室があることが望ましい。

垣根を設ける、もしくはコンテナを連結して別室を待合室とすることを提案した。



保健センターの裏側、HTC センターとの空いたこのスペースで待つことになる(奥のコンテナが HTC センター)

■事例 9●【優良事例】： 14. 5S 概念

ワンボックスのコンテナ内に、待合/カウンセリング/検査スペースを含むが、物品がキャビネット内に整理・管理されているため、狭さを感じさせない。

また排水やゴミを内容別に分け管理することで、施設内は非常に清潔に保たれている。



「ポリバケツのゴミ箱」
種類ごとに分けて捨てられる



水道がない代わりに
工夫されている



トビラーネムジンバ同様、
書類・物品の管理が徹底して
行われている

●【改善必要事例】

コンテナ窓の高さは、大人の腰高ほどであるので、窓の側に立つと室内を容易に覗きこむことができ、またカウンセリング中の声も聞こえやすい。しかしコンテナに直接日が当たり、日中の温度が高くなるため窓を閉め切ることはできない。(隣の保健センター用に設置されたコンテナには、上部に日よけが付けられているため、温度が上昇するのを防ぐ効果がある。)

この状況を改善するために、窓の外側に植栽を設けることを提案した。(※保健センターで使われているコンテナ横にある植栽を例として紹介する。)



コンテナ窓の高さは大人の腰ほどであるので、容易に中を覗くことができる



カウンセリング室内のようす

●【優良事例】

これは保健センターに増設されたコンテナであり、診察室として使われている。窓に沿って植栽がされているため、窓に近づくことができない。視線を防ぎ、声が漏れるのを防ぐのに、植栽は有効である。



保健センター横に植えられた植木

■ サイト 3 TV3 Towvirane Jenda (NGO トビラーネ ジェンダ)

【改善項目】： 1. 建物名表示 5. 掲示物 9. 家具配置

1 概要

訪問日：2008 年 4 月 28 日午前

場 所：ムジンバ県ジェンダ

HIV 検査開始時期：2006 年

開館時間：平日 8 時～17 時

出張検査：なし

ART：なし

職 員：カウンセラー・検査技師（男-1/女-1）

クライアントの数（月平均）：男-50 / 女-25（妊婦を含む）



週一回水曜日に市場が開かれるので、周辺の村からは前日から泊りがけで農産物などを持って多くの人が集まる。マラウィ南北を走る主要道路沿いに位置し、ザンビアへの中継地点となるので、HIV 感染リスクの高い街とされている。マラウィ全国小規模生産者協会(NASFAM:National Smallholder Farmers' Association of Malawi)に隣接しており、HTC センターの建物も NASFAM の倉庫を改修して使われている。

2 建築的所見での助言、改善内容

■ 事例 11 ●【優良事例】： 1. 建物名表示

他のトビラーネ HTC サイト同様、トビラーネのマークと開館時間が記された掲示板が道路沿いに立てられている。表示があることで、車で通っても看板から情報を得ることができ、センターへのアクセスにつながる。



道路脇に立てられた看板

■事例 12●【改善事例】：5. 掲示物

BEFORE

調査時、施設は壁の塗り替えのためポスターを全てはがした状態であった。ポスターを保存してあったため、貼ることを提案した。



何も情報が掲示されていない待合室

AFTER

ホッチキスを用いて、待合室にポスターを掲示した。ポスターは写真が大きく、また現地語でメッセージを書かれたものがほとんどであるので、訪れた人の目に触れる機会を多く作りたい。



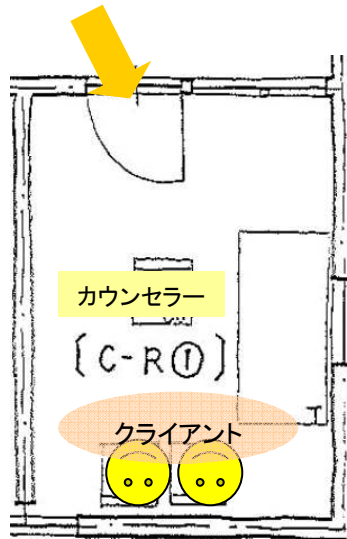
ホッチキスでポスターを固定するスタッフ

■事例 13 ●【改善事例】： 9. 家具配置

BEFORE

写真は、カウンセリング室が開いたときの、待合室からの見え方。カップルカウンセリングを想定したが、クライアントの顔が外からの視線にさらされる。また、検査スペースとなる机がドアを開けてすぐ横にあり、人の出入りによるリスクが大きい。

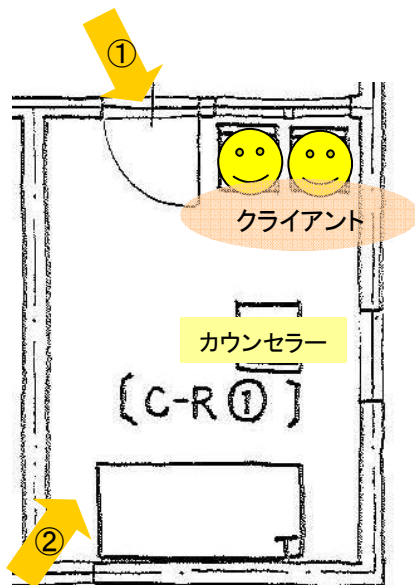
図中、矢印の位置より撮影



奥の二人がクライアントの位置

AFTER

カウンセラーとクライアントの席を逆にすることで、クライアントが人目にさらされることを回避した。また机を室内奥に配置し、カウンセラーのカウンセリング・検査にかかるスペースを確保した。



カウンセラーしか見えなくなった

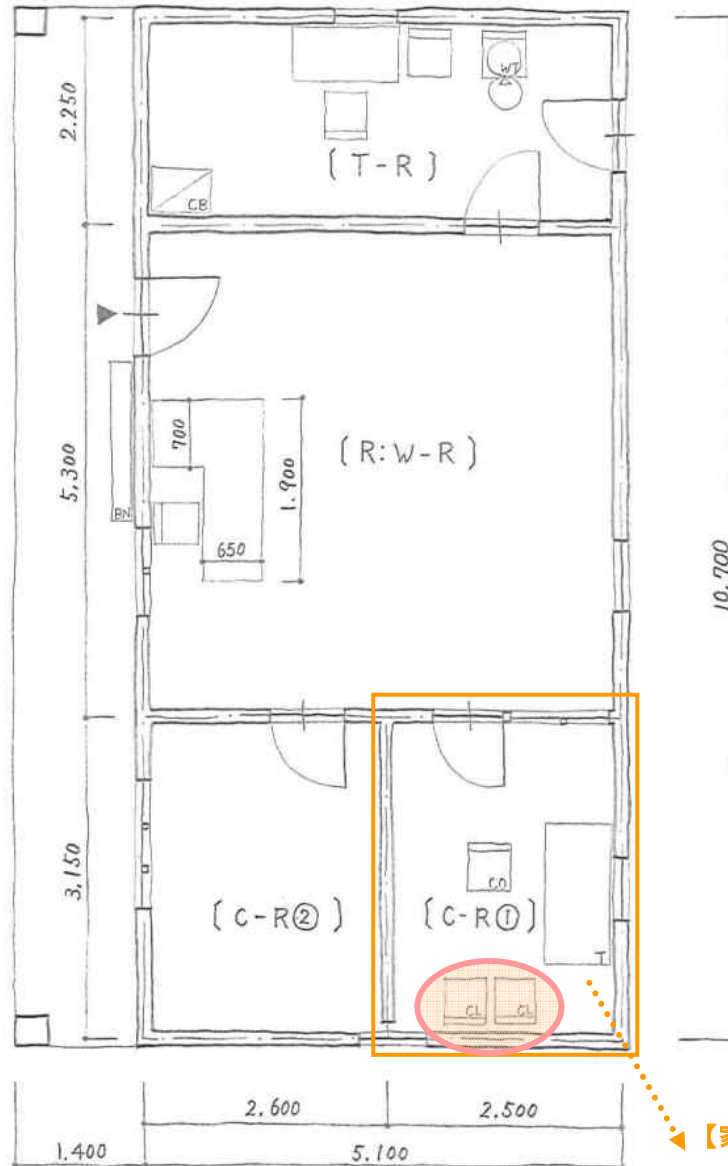


クライアントはドア裏側に移動した

TV3 Towvirane Jenda (NGO トビラーネ ジェンダ) 平面図

4/28(TV-3)

⑪ Towvirane Jenda VCT Center



【凡 例】

T-R: 処置室

R:W-R: 受付・待合室

C-R: カウンセリング・検査室

WT: 水タンク

CO: カウンセラーの椅子

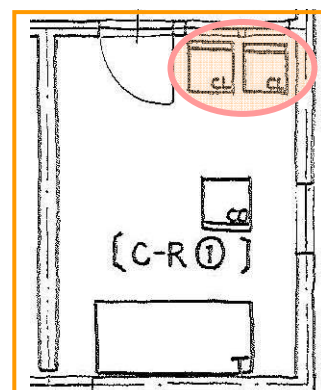
CL: クライアントの椅子

T: テーブル

- Before -

S = 1/80

【家具配置変更後】



■ サイト 4 BLM1 Banja La Mtsogolo Mzimba (NGO バンジャラムツゴロ ムジンバ)

【改善項目】: 1. 建物名表示 4. 時間(サービス)表示 5. 掲示物

1 概要

訪問日: 2008 年 4 月 11 日 午前

場 所: ムジンバ県ムジンバ

開館時間: 平日 8 時~17 時 土曜 8 時~12 時半

出張検査: 村のヘルスセンターで実施

(カウンセラーがローテーションで行なう)

ART: あり

職 員: カウンセラー・検査技師 (男-1/女-1)、ボランティア数名

クライアントの数 (2007 年): 【固定検査】 男-1,302 / 女-1,075

【主張検査】 男-387 / 女-341



ムジンバの中心、市場の向かいに位置する。車・人通りの多い道路に面しているが、道路側の植栽が目隠しの役割を果たしている。建物入り口正面に植木があるため、扉が開いていても道路から建物内部が見えることはない。

2 建築的所見での助言、改善内容

■ 事例 14 ●【優良事例】: 1. 建物名表示

建物正面の上部に、大きく建物名が表示されており、

前を走る主要道路からもよく見える。

また道路沿いにも、案内表示が立てられている。



表通りからでもよく見える表示

■ 事例 15 ●【優良事例】: 4. 時間(サービス)表示

入り口扉の横には、バンジャラムツゴロ HTC センター

で共通の、写真右のプレートが取り付けられている。



入り口横につけられた時間表示

■事例 16 ●【優良事例】： 5. 掲示物

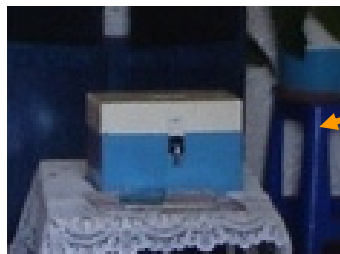
薬の実物サンプルが掲示され、名称と値段が表示されている。処方される薬の値段がいくらかを事前に知ることができるので、クライアントにとって親切な案内である。



入り口横につけられた時間表示

Box-2: サービス向上のための意見箱

待合室テーブル上に、意見箱が置かれている。木で作られた箱で、鍵がかけられるようになっている。クライアントの声として、普段スタッフが気づかない点を出されることで、よりクライアントの立場を考えた施設環境を作っていくことが可能となる。



待合室テーブルの上に置かれた意見箱



奥のスペースが待合室

■ サイト 5 BLM2 Banja La Mtsogolo Nhkatabey (NGO バンジャラムツゴロ カタベイ)

【改善項目】: 2. 動線表示 15. 目隠し(壁) 16. スロープ 17. その他(採光)

1 概要

訪問日: 2008 年 4 月 21 日 午前

場 所: カタベイ県カタベイ

開館時間: 平日 8 時~17 時 土曜 8 時~12 時半

出張検査: なし

ART: あり

職 員: 医師 (男-1)、リプロダクティブヘルスアシスタント (女-2)

看護師 (数名)、カウンセラー・検査技師 (女-2)

受付 (女-1)

クライアントの数 (2008 年 3 月): 男女-187

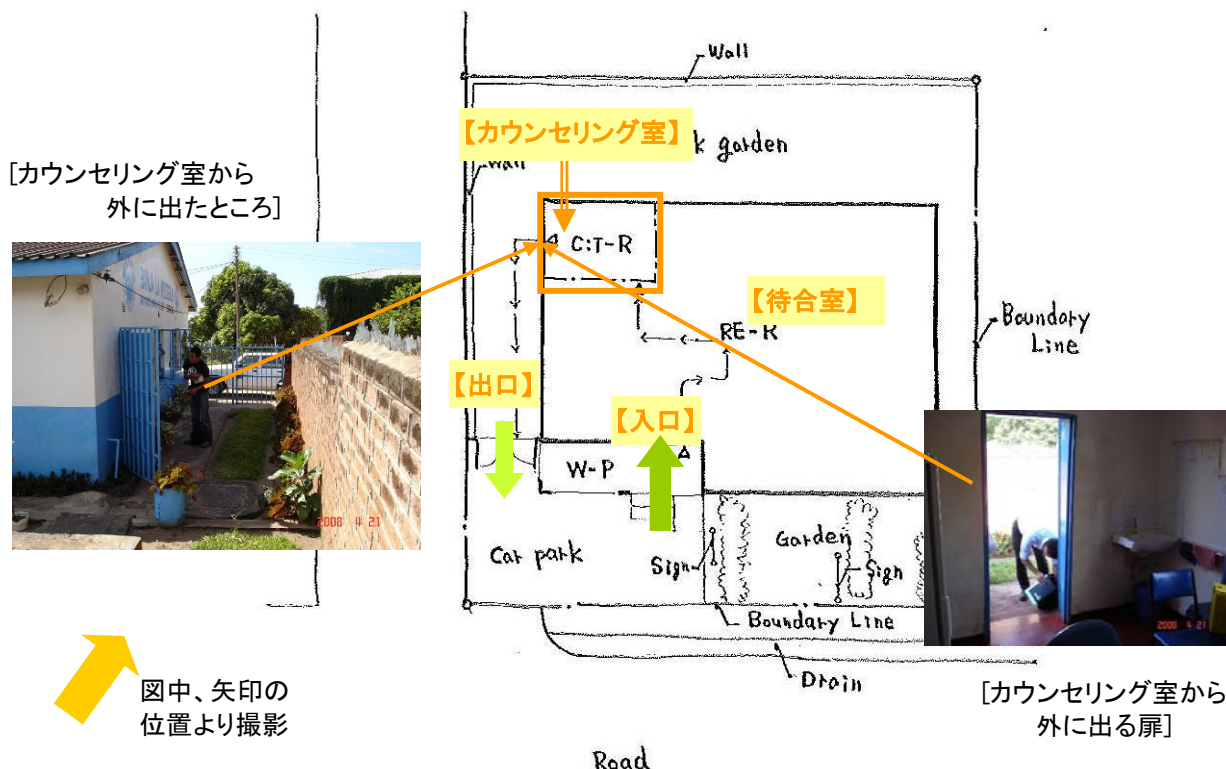


マラウィ湖畔のリゾート地カタベイ。湖沿いには外国人向けの宿泊施設が並び、街でも観光客を多く見かける。観光客相手に土産物などのビジネスも展開されるために、多くの人が集まり HIV 感染リスクの高い街とされている。BLM カタベイは、街中からリゾート地へ向かう途中にあり、HIV 検査に観光客が立ち寄ることもある。医療機関は、この BLM と街から山手にある県病院の二つである。

2 建築的所見での助言、改善内容

■ 事例 17 ●【優良事例】: 2. 動線表示(一方通行)

カウンセリング室には、施設内部に通じる扉とは別に、施設の外に出る扉がある。この外向きの扉を利用することで、クライアントはカウンセリングの後、希望に応じて他のクライアントのいる待合室を通らずに外部に出ることができる。プライバシーが保護されることで、施設へアクセスするクライアントの安心感につながる。



■事例 18●【優良事例】： 15. 目隠し(壁)

建物は周囲全体を壁に囲まれておらず、写真の施設入り口は道路に面している。青いブロックの内側にはベンチが置かれているが、ブロックがあることで中にも人目にさらされることはない。



通り沿い正面玄関に設けられたブロック塀

■事例 19●【優良事例】： 16. スロープ

道路からは石積みで作られた緩やかなスロープを通り、さらに段差にもスロープが設けられている。車椅子であっても、一人で中まで入っていける。



道路から建物中へ続くスロープ

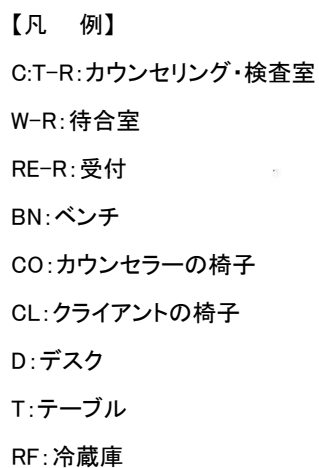
■事例 20●【優良事例】： 17. その他(採光)

建物上部には、開閉できる小窓がついている。この窓があることで、室内に風を入れることができ、また室内は明るく保たれる。



室内上部の天窓

BLM2 Banja La Mtsogolo Nhkatabey (NGO バンジャラムツゴロカタベイ) 平面図


$$S = 1/80$$

2. 医療施設内の HTC センター

■ 保健センター

- ☐ HC1 : Manyamula Health Center*
- ☐ HC2 : Emfeni Health Center*
- ☐ HC3 : Mhuju Rural Hospital

第 1 次医療施設に属し、一部保健センターで HIV 検査が開始されている。外来診療、妊産婦健診、分娩、家族計画、結核患者の継続治療や患者家族指導のほか、モバイル（出張）クリニックでの予防接種や乳幼児健診、健康教育、公衆衛生活動などを行っている。保健センターの一室が HIV 検査のカウンセリング・検査室にあてられていることが多い。

■ 病院（教会系/県病院）

- ☐ MHP1 : Embangweni Mission Hospital
- ☐ MHP2 : St. Patrick's Hospital
- ☐ MHP3 : Ekwendeni Hospital
- ☐ MHP3' : Vaola Outreach Site
- ☐ MHP4 : Katete Mission Hospital
- ☐ DH01 : Mzimba District Hospital*
- ☐ DH02 : Rumphi District Hospital*

第 2 次医療施設に属し、一般外来（内科・外科・皮膚科・眼科・歯科・産婦人科、など）と、入院病棟（内科・外科・小児科・産婦人科、など）があることが一般的である。産婦人科で受けられる PMTCT とは別に、HIV 検査棟（HTC センター）があることが多い。

* 無償資金協力「地方保健医療施設改善計画」（平成 19 年度）で施設および医療機器を整備中

■ サイト 6 HC1 Manyamula Health Center (マニヤムラ保健センター)

【改善項目】: 2. 動線表示

1 概要

訪問日: 2008 年 4 月 10 日 午前
場 所: ムジンバ県
開館時間: 平日 7 時～12 時、13 時半～16 時半
出張検査: あり (対象 48 村)
ART: なし
職 員: メディカルアシスタント (男-1)、看護師兼助産師 (女-2)
 カウンセラー・検査技師 (男-2)
クライアントの数 (2007 年 7 月～2008 年 1 月合計):
 男-102 / 女 (妊娠なし) -193 / 女 (妊娠あり) -113
特 徴: 無償資金協力「地方保健医療施設改善計画」



ムジンバの中心から車で 1 時間半のところに位置する。HACI(Hope for African Children Initiative) と WV(World Vision)の支援を受けており、保健センター横には「HIV/AIDS and Orphan Care Community Based Project」として HIV/AIDS Resource Centre が建てられている。村人・陽性者に対して栄養改善指導ができるカウンセラーが常駐し、World Food Program にてカウンセラーをさらに 2 名研修中である。

2 建築的所見での助言、改善内容

■ 事例 21 ●【改善必要事例】／●【優良事例】: 2. 動線表示

●【改善必要事例】

左建物奥が検査室であるが、表示がないために外からはわからない。保健センターでは、妊婦検診の後に母子感染予防(PMTCT)検査が行われることが多いが、青少年等が一人で訪れても躊躇することのないよう、どこへアプローチすればすぐわかるような表示があることが望ましい。



保健センター外観

●【優良事例】

保健センター建物内部には、診察室から検査室まで通路に沿って、写真のような表示が貼られている。



紙に手書きされた動線表示

■サイト7 HC2 Emfeni Health Center (エンフェニ保健センター)

【改善項目】：2. 動線表示 14. 5S 概念

1 概要

訪問日：2008 年 4 月 14 日 午前
場 所：ムジンバ県マニャムラ
HIV 検査開始時期：2006 年 7 月
開館時間：平日 8 時～16 時半（月・水・金）
出張検査：なし
ART：なし
職 員：メディカルアシスタント（男-1）、看護師兼助産師（女-2）
カウンセラー・検査技師（女-1）
クライアントの数（2008 年月平均）：
男-20 / 女(妊娠なし)-30 / 女(妊娠あり)-20
特 徴：無償資金協力「地方保健医療施設改善計画」



主要道路から、未舗装道路を 15km 進んだところに位置するエンフェニ村。NGO トビラーネでカウンセラー研修を受けたボランティアスタッフが HIV 検査を担当している。村で HIV 検査を受けられるのは、この保健センターと CBO により運営されている HTC センターの二つである。カウンセラーは現在 1 名で、週のうち月・水・金を保健センターで、火・木を CBO の HTC センターで勤めている。

2 建築的所見での助言、改善内容

■事例 22●【優良事例】：2. 動線表示

診療待合のスペースから HIV 検査の部屋まで、『VCT』と手書きされた紙が壁に貼られ、動線に沿って誘導している。



順路に沿って付けられた動線表示

■事例 23●【優良事例】：14.5S 概念

カウンセリング・検査室は広くないが、備品がきれいに整理整頓され、机の上の作業スペースが十分に空けられている。維持管理は備品の耐久性に影響するだけでなく、クライアントに衛生面で不快な印象を与えない。



整理整頓された机の上

■ サイト 8 HC3 Mhuj Rural Hospital (ムフジュ地域病院)

【改善項目】：3. 待合室の位置

1 概要

訪問日：2008 年 4 月 22 日 午前
場 所：ルンピ県ムフジュ
HIV 検査開始時期：2004 年
開館時間：平日 7 時半～16 時半
出張検査：なし
ART：火・木-対象：大人、水-対象：子ども
職 員：カウンセラー・検査技師（HSA 女-1）
クライアントの数（2007 年 9 月～2008 年 2 月合計）：
男-912 / 母子感染予防(PMTCT) -425
特 徴：JOCV（看護師：女-1）活動中



ルンピ県の中心から車で 2 時間のところに位置する。JICA 支援によって太陽光電気が導入されたことによって、深夜の分娩環境が改善された。病院は十分な広さを有しているが、HIV 検査と ART クリニックは産婦人科棟の外側に面した部屋で行われているため、ルンピ県病院で HTC センター建設の予算組みが検討されている。

2 建築的所見での助言、改善内容

■ 事例 24 ●【改善必要事例】：3. 待合室の位置

病院の裏側、写真中丸囲いが検査を待つスペースとなる。建物内は産婦人科用の長いすの置かれた待合室があるが、診察待ちの妊産婦でほぼいっぱいになってしまう。加えて、週に 3 回行なわれる ART の部屋も建物に入ったすぐにあるため、HIV 検査用の待合室はなく、HTC 部屋の正面外にイスを並べて待つことになる。



病院裏からの写真。建物右の部屋が HTC 部屋

調査中も外にイスを出して待つ青少年の姿が見られたが、病院裏は畑・民家があるために人が通ることも多い。今後、病院施設内に HTC センターが建設予定であるが、他病棟との位置関係に配慮し、他諸室のように待合室を室内に設けることが望ましい。



椅子隣の入り口がカウンセリング室

■ サイト 9 MHP1 Embangweni Mission Hospital (エンヴァンゲーニ教会病院)

【改善項目】: 2. 動線表示 6. 室名表示 10. 室内塗装色 12. 窓下目隠し

1 概要

訪問日: 2008 年 4 月 16 日午前

場 所: ムジンバ県エンヴァンゲーニ

HIV 検査開始時期: PMTCT-2001 年 8 月、一般-2003 年

出張検査: 毎日 (ボランティアカウンセラーが順番に実施)

ART: 2004 年開始、2005 年より無料化

職 員: 正規カウンセラー数名、ボランティアカウンセラー11 人
クライアントの数 (2008 年 1 月~3 月合計):

HTC 一般-2,201 / 母子感染予防(PMTCT) -907 / 青少年-552



CCAP (長老派、Church of Central Africa Presbyterian) 教会系の病院であり、特にスコットランドからの支援を受け病院の施設環境改善が行われている。上記写真は、敷地内奥に新設された建物 (一部工事中) であり、左が小児科棟、右が検査棟である。ART クリニックは、以前は敷地内中央部で人の往来の多い通路沿いに設置されていたが、HIV 検査と同じく写真右の棟内に移された。

2 建築的所見での助言、改善内容

■ 事例 25 ●【優良事例】: 2. 動線表示

以前、HIV 検査・ART が行われていた場所から、新棟のほうへ向かって、案内の紙が貼られている。案内の紙は曲がり角の要所に見られるため、クライアントは迷わずに目的地まで着くことができる。



旧 HIV 検査場所から新棟への動線案内表示

Box-3: アクセスしやすい施設位置とは・・・

以前、ART クリニックは病院中央部の人目にさらされやすい位置にあった。そのため、外で待つクライアントのプライバシーに配慮し、部屋周辺に木で編んだ柵を置いて工夫していたそうである。新棟に移ってからは建物内に待合室が設けられ、外部からは見えない。プライバシー観は国や文化によって異なるが、その土地でクライアントがアクセスしやすい施設位置となるよう、クライアントの心情を考慮に入れたい。

■事例 26●【優良事例】： 6. 室名表示

カウンセリング・検査室の扉には、室名表示が貼られている。新棟の廊下は、同様の扉が 5 つ以上並ぶ長い廊下であるため、各部屋の表示は重要である。

長い廊下で、一目にどこが何の部屋であるかを示すために、壁に直角にプレートを立てることも提案した。



新棟内、HIV 検査室の扉

* 室名表示プレート作成中 *

マラウィでは、どの施設でも完成された室名表示が取り付けられており、プラスチックのプレートや写真のように木を使ったデザイン性の高いものが取り付けられていることが多い。



■事例 27●【優良事例】： 10. 室内塗装色

廊下・室内と統一して、明るいアイボリーで塗られている。目線より下部は、人の手が触れることもあり、拭き掃除のできるコーティング用のペンキが使われている。各部屋の窓も大きく取られているため光がよく入り、壁に反射するために室内は明るく保たれる。



カウンセリング室室内(使用なし)



新棟内の廊下

■事例 28●【優良事例】： 12. 窓下目隠し

開閉できない窓下部には、曇りガラスが使われている。
外側を歩くとこの高さが目線位置になるため、曇りガラス
を使うことで部屋内部を見えにくくし、さらに明るさは妨げ
ないので有効である。



カウンセリング室外側から

■ サイト 10 MHP2 St. Patrick's Hospital (セントパトリックス病院)

【改善項目】: 1. 建物名表示 4. 時間(サービス)表示 9. 家具配置 12. 窓下目隠し

1 概要

訪問日: 2008 年 4 月 22 日午後
場 所: ルンビ県
HIV 検査開始時期: 2008 年 1 月
開館時間: 平日 7 時半～16 時半
職 員: カウンセラー・検査技師 (男-1)
クライアントの数 (日平均): 5



ルンビ県中心から 2～3km の位置にある教会系病院。2008 年 1 月より HIV 検査をスタートし、現在カウンセラー1名が対応している。現在、入院室横にある小さな部屋一室で検査を実施しているが、クライアントの立場に配慮した工夫が見られ、有効に部屋が使われている。

2 建築的所見での助言、改善内容

■ 事例 29 ●【優良事例】: 1. 建物名表示 4. 時間(サービス)表示

主要道路から病院への曲がり角(写真位置)に、病院の案内版が設置されている。また看板には、病院のサービス内容が書かれており『HTC』サービスも含まれる。

HIV 検査を受ける場所を、近くの生活圏内とするか外とするかはクライアントの選択による。セントパトリックス病院は、ルンビの町からさほど離れておらず、選んでセントパトリックス病院にくるクライアントも見られる。人々に広く情報を届け、選択肢を提供することは検査へのアクセスにも影響を及ぼす。

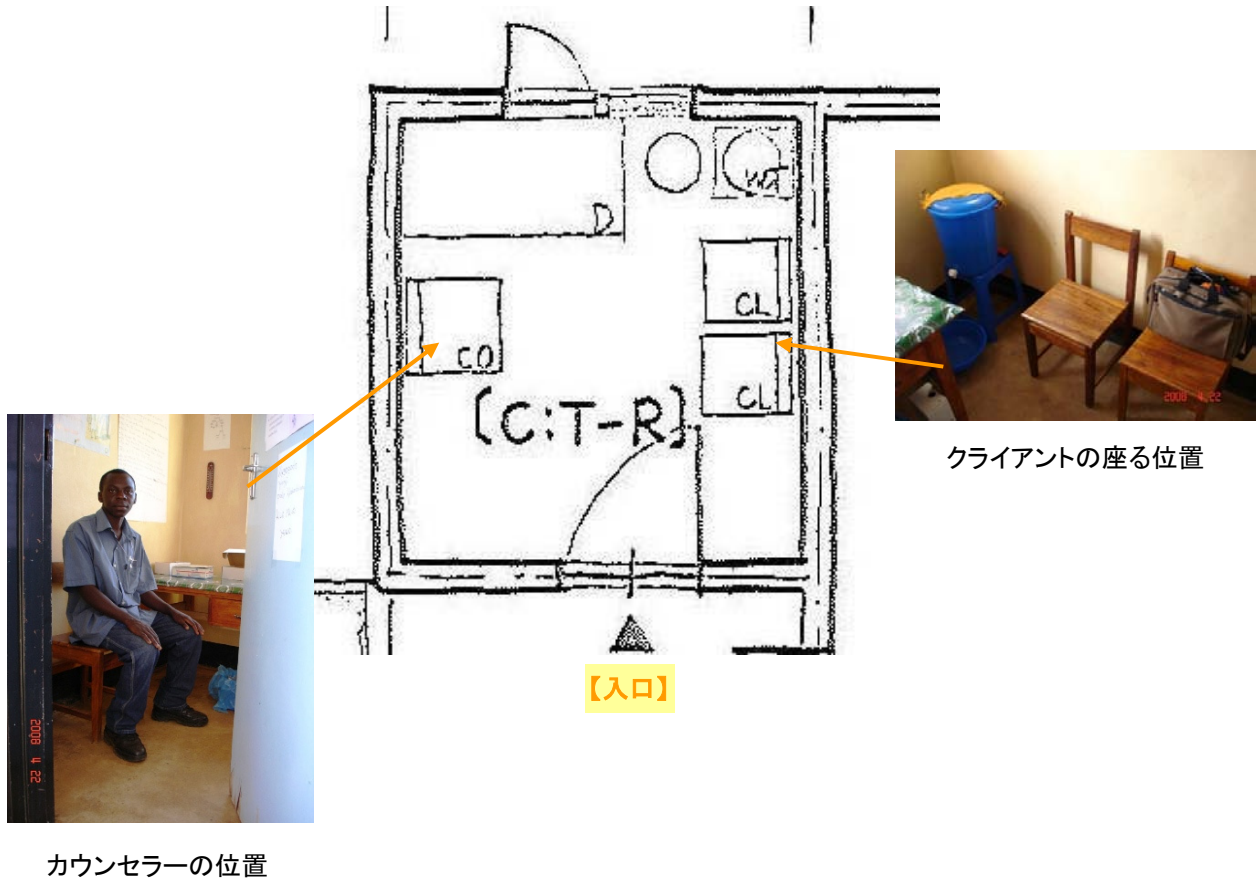


病院への曲がり角に立てられた看板



■事例 30●【優良事例】： 9. 家具配置

広くない室内ではあるが、備品は整理され家具配置も工夫され、スペースが有効に使われている。扉を開けて見えるのはカウンセラーで、死角側にはクライアントが座るようになっている。カップルカウンセリングもできるようになっているため、クライアントのプライバシーが保護される望ましい配置例である。



■事例 31●【優良事例】： 12. 窓下目隠し

窓の下部にワイヤーが張られ、カーテンが取り付けられている。窓上部は採光が入るために室内は明るく、カウンセリングのときにはカーテンが閉められるために、クライアントのプライバシーは保護される。



カウンセリング室の窓

■ サイト 11 MHP3 Ekwendeni Mission Hospital (エクウェンデーニ教会病院)

【改善項目】： 3. 待合室の位置 12. 窓下目隠し

1 概要

訪問日：2008 年 4 月 24 日午前
場 所：ムジンバ県エクウェンデーニ
開館時間：平日 7 時 15 分～12 時、13 時 15 分～17 時
土曜 7 時～12 時
出張検査：あり
ART：あり



ムジンバ県の北部ムズズから車で 30 分のところに位置する。サイト 9 エンヴァンゲーニミッション病院同様 CCAP 教会系の病院であり、教会周辺には病院の他、ユースセンターや家族計画等の啓発を実施するようのセンターも隣接しており、ビデオ等の教材も充実している。病院内だけでなく、各々のセンターで HIV 検査を受けることができる。

2 建築的所見での助言、改善内容

■ 事例 32 ●【優良事例】： 3. 待合室の位置

写真は、病院内に設置された HTC センター。

病院建物に入ると、正面に一般外来用の待合室があるが(写真上)、HTC センターは待合室を含め、ブロック壁一枚隔てた内側に設置されている。待合室に面したカウンセリング室へ直接アクセスできるため、クライアントの不安は緩和される。

また待合室にはテレビが置かれ、HIV 啓発用のビデオも鑑賞できるようになっている。



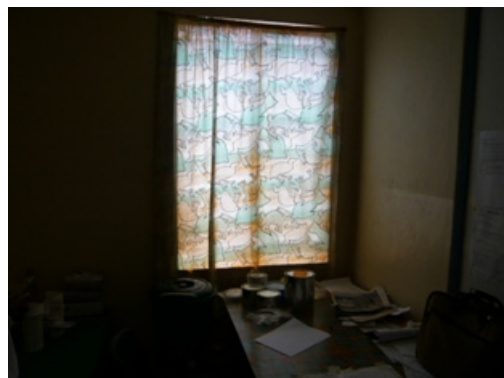
ブロック塀の向こう側が HTC センター



HTC センターの内側、待合室

BEFORE

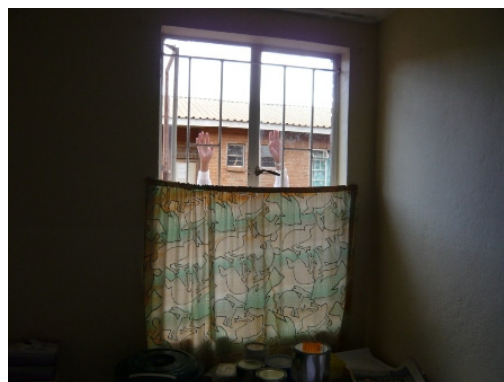
カウンセリング中の室内の様子。カーテンが閉められプライバシーは保護されるが、非常に暗い。



窓全体が覆われた状態

AFTER

上記の状況を改善するために、窓下半分を覆うカーテンの取り付け方を提案した。写真右、窓の外に人が立って両手を挙げているのが見えるが、カーテンの位置を下ろしても、外側から人目にさらされることはない。同時に、窓上部からは室内へ採光が確保でき、室内は明るくなる。



カーテンの位置を下げた

Box-4: 多目的機能によるアクセス改善効果

エクウェンデー二には、病院施設の他、教会周辺に青少年活動のためのリソースセンター、家族計画のための啓発センター、スポーツ広場が整備されている。青少年活動のためのリソースセンターでは、HIV・STI(性感染症)に関するビデオ鑑賞、薬や保健に関するセミナー、他にもユースグループが自発的に啓発劇やダンス、音楽の作成を行う場としても機能している。スポーツ広場では、自由にスポーツができ、病院のクライアントや HIV 検査希望者だけでなく、いろいろな人が各々の目的で集う『場』を提供している。

HIV 検査施設が多目的機能を有していることから、アクセスすることへの抵抗を下げ、またその場所にいる目的が紛れるためにプライバシー保護にもつながる。どのような目的にせよ、施設にアクセスすることで様々な情報を得て、HIV 検査の受診へとつながるためにも、多目的機能を有した施設は有効という面もある。

■ サイト 12 MHP3' Vaola (バオラ) ; エクウェンデーニ教会病院アウトリーチサイト

【改善項目】: 12. 窓下目隠し

1 概要

訪問日: 2008 年 4 月 24 日午前

場 所: ムジンバ県エクウェンデーニ、バオラ

(エクウェンデーニミッション病院の
アウトリーチ (出張検査) サイト)

開館時間: 毎木曜日 8 時半~16 時

職 員: カウンセラー・検査技師 (男-1/女-1)

クライアントの数 (1 日平均): 約 15 人

サイト 11 エクウェンデーニミッション病院の出張検査先であり、病院から車で 1 時間ほど進んだところに位置する。毎週木曜日、検査機材や備品を持ってエクウェンデーニからカウンセラーが 2 名ずつ訪れる。写真にある村所有の建物のうち、向かって一番右側の一室を HTC にあてている。週一回の出張検査があることで、村人は村から遠いエクウェンデーニまで行かなくとも検査が受けられるようになった。HTC センターとしては十分な設備を有していないが、一部備品を村で保管するなどしており、村との協力関係のもと今後もカウンセリング・検査の環境が改善されていくことが期待される。



2 建築的所見での助言、改善内容

■ 事例 34 ●【改善必要事例】: 12. 窓下目隠し

出張検査時は、村の建物の一室をカウンセリング室として使っている。窓は写真のように穴あきブロックであるため、カーテンで覆い外部からの視線を遮ったり、窓を閉めて遮音したりすることができない。検査時には、好奇心旺盛な子どもたちが、外から中を覗くこともよくあるという。

そのため外窓に、現地で調達できる木で編んだ柵を立てかけるなどして外部からの視線をさえぎるとともに、距離を設けてカウンセリング中の音が外に聞こえないように配慮することを提案した。



カウンセリング室室内の様子



カウンセリング室の裏側

■ サイト 13 MHP4 Katete Mission Hospital (カテテ教会病院)

【改善項目】： 2. 動線表示 4. 時間(サービス)表示 6. 室名表示 8. 扉の開閉管理
13. 間仕切り 16. スロープ

1 概要

訪問日：2008 年 4 月 28 日午前
場 所：ムジンバ県カテテ
開館時間：平日 8 時～12 時、14 時～16 時半
土曜 8 時～11 時半
ART：あり（火・木）

ムジンバ県の中心から車で 1 時間半、主要道路から数キロ山間に入ったところに位置する。病院は広く棟が立ち並んでいるが、通路やスロープが整備され各棟への連結がよい。HTC センターにはビデオ教材が充実しており、広いセミナーホールでは病院スタッフが交替で保健に関するセミナーを行うなど、地域の保健意識の向上に積極的に取り組んでいる。



2 建築的所見での助言、改善内容

■ 事例 35 ●【優良事例】： 2. 動線表示

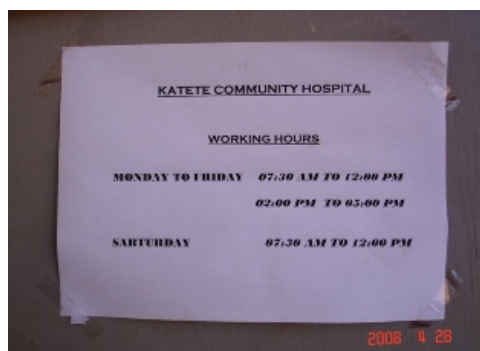
棟を結ぶ通路には、各サービスへの案内表示が掛けられている。HTCセンターは、病院入り口からは奥に位置するが、案内表示があることでクライアントは迷わずサービスにアクセスすることができる。



病院内通路に掛けられたプレート

■ 事例 36 ●【優良事例】： 4. 時間(サービス)表示

通路に掛けられた動線案内表示と同様、カウンセリング室の扉にも HTC サービスの時間が表示されている。病院を訪れるクライアントに、確実に情報を届ける配慮が見られる。



HTC センターカウンセリング室の扉に掲示された紙

■事例 37 ●【優良事例】： 6. 室名表示 8. 扉の開閉管理

『ARV*クリニック担当者』の部屋に掲示された室名表示。『STOP』と書かれた掲示もされていることで、誤って扉を開くのを防止するのに有効である。現地語で書かれていることも、地域のクライアントへの理解を助長する。

*ARV: Anti-Retroviral Drug 抗レトロウイルス薬



ARV クリニック担当者の部屋

■事例 38 ●【優良事例】： 13. 間仕切り

一つの施設内で、HIV 検査と ART クリニックの二つ機能を有している。そのことで二つのサービス間の連携がよくなるが、両サービスの利用者が異なるため、間仕切りのカーテンを敷くことでクライアントの移動を管理することができる。



【凡 例】

W-R: 待合室

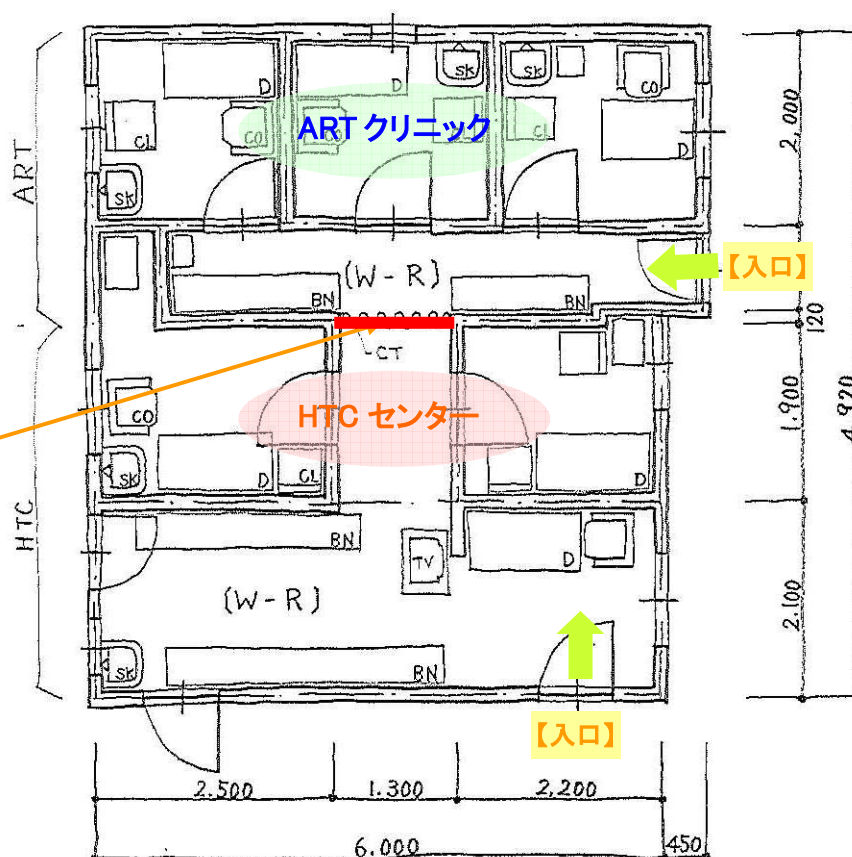
BN: ベンチ

CO: カウンセラーの椅子

CL: クライアントの椅子

D: デスク

CT: カーテン



- Before - S = 1/80

病院入り口から敷地奥へと続く通路。各棟の間に
なだらかに設置されており、車椅子であっても一人
で通ることができる。スロープは車椅子の利用者
だけでなく、病人や妊婦にとっても安全に行き来し
やすくクライアントにとってやさしい設備である。



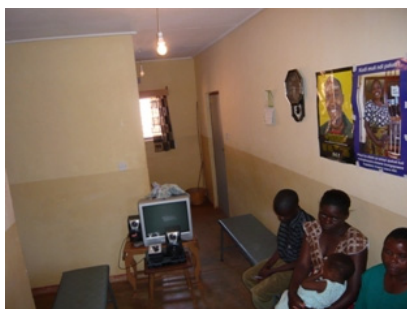
病院中央にある通路

Box-5: 地域住民の保健知識の向上のために

カテテミッション病院は、施設のリソースが充実しているだけでなく、病院スタッフや HTC カウンセラーによる保健教育セミナー等を積極的に展開し、地域住民の保健知識向上に取り組む活動が見られる。写真左は、HIV/エイズをわかりやすく説明するための紙芝居でカウンセリング時に使われる。この他、待合室にはポスターが豊富に掲示され、待っている間に HIV/エイズの知識を高められるようビデオ教材も整備されている。セミナー室では、毎週曜日ごとにテーマを決め保健に関するセミナーを実施しており、多くの人が参加している。セミナーに対するスタッフの意欲的な姿勢が印象的であり、これに乗じて多くの住民がセミナーに参加し、地域全体の保健状況が改善していくことが期待される。



カウンセリング室にある紙芝居



HTC センターの待合室



啓発用ビデオ教材

■ サイト 14 DHO1 Mzimba District Hospital (ムジンバ県病院)

【改善項目】: 2. 動線表示 11. 窓の高さ 13. 間仕切り 14. 5S 概念

1 概要

訪問日: 2008 年 4 月 17 日 午前
場 所: ムジンバ県
HIV 検査開始時期: 2004 年
開館時間: 平日 8 時～16 時半、土曜 8 時～12 時
ART: あり
職 員: カウンセラー・検査技師 (男女-数名)
特 徴: 無償資金協力「地方保健医療施設改善計画」
JOCV (栄養士: 女 1) 活動中

ムジンバ県病院は県の保健行政を担当するとともに、県内の医療施設のハブとしての役割を持つ県中央病院である。産婦人科・HTC センターで HIV 検査が行われており、週 2 回の ART には県内から多くのクライアントが訪れる。



病院の正面玄関



HTC センター外観

2 建築的所見での助言、改善内容

■ 事例 40 ●【優良事例】: 2. 動線表示

HTC センターは、病院敷地内の奥に位置する。そのため、正面玄関を入ったところから HTC センターまでの看板が各要所に設けられている。



病院内道路沿いに立てられた案内看板

■ 事例 41 ●【優良事例】: 11. 窓の高さ

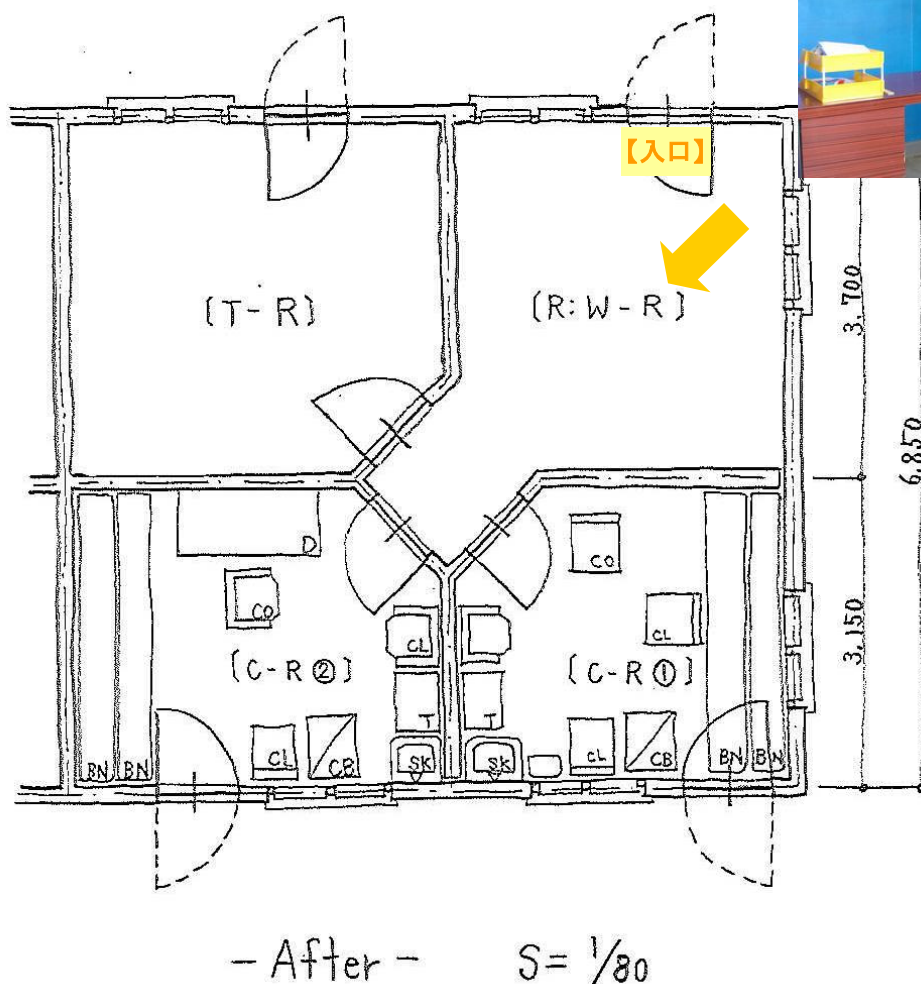
左右の写真を比較すると、目線の窓にかかる高さが違うのがわかる。病院の検査室では採光を確保し、かつ室内も見えないように、高い位置に窓が設定されていることも有効である。

～窓の高さの比較～



■事例 42 ●【優良事例】： 13. 間仕切り

以前、別目的で使用されていた建物を改修し、カウンセリング室を設けた。その際、入り口の扉を一箇所に集めることで、写真手前の待合室からはどの部屋の内部も見えにくくなった。あまり例を見ない特徴的な間仕切りの仕方である。



【凡 例】

- C-R: カウンセリング室
- R:W-R: 受付・待合室
- T-R: 処置室
- BN: ベンチ
- CO: カウンセラーの椅子
- CL: クライアントの椅子

図中、矢印の位置より撮影

■事例 43 ●【優良事例】： 14. 5S 概念

病院廊下には、写真のようにゴミ箱が壁にかけられている。清掃スタッフが常時清掃にあたり、病院全体に掃除が行き届いていることもあるが、このようなゴミ箱を設置しておくことでゴミ箱へのアクセスがよく、ゴミのポイ捨てが防止できる。壁にゴミ箱をかけるのは、オリジナルで面白い工夫である。



病院廊下に設置されたゴミ箱

■ サイト 15 DHO2 Rumphi District Hospital (ルンピ県病院)

【改善項目】: 2. 動線表示 4. 時間(サービス)表示 5. 掲示物 12. 窓下目隠し 14. 5S 概念

1 概要

訪問日: 2008 年 4 月 23 日 午前
場 所: ルンピ県
HIV 検査開始時期: 2004 年 9 月
開館時間: 7 時半～16 時
出張検査: あり (毎日交代で近隣の村へ出かける)
ART: あり (平日 7 時半～16 時) 2005 年開始
職 員: カウンセラー・検査技師 (男-5/女-7)
クライアントの数 (一日平均): 15
特 徴: 無償資金協力「地方保健医療施設改善計画
JOCV (栄養士: 女 1) 活動中

ルンピ県の中央病院。2004 年 9 月、現在栄養指導室として使われている一室から HIV 検査をスタートし、現在は写真右の HTC センターが建てられ使われている。HTC センター隣にある ART 棟は『Sun Rise』と名づけられ、日の出の太陽とともに建物名を表示した大きな看板が付けられている。カウンセラーの人数も多く、HIV 検査だけでなく ART 支援も充実している。

2 建築的所見での助言、改善内容



病院入り口の看板



HTC センター

■ 事例 44 ●【優良事例】: 2. 動線表示

HTC センター、ART へ案内する看板。病院内に、同様の看板が数箇所設置されている。



左が HTC、右が ART の看板



看板を過ぎて左奥が HTC センター

■ 事例 45 ●【優良事例】: 4. 時間(サービス)表示

病院入り口に、現地語でサービス内容の書かれた看板が立てられている。ルンピ県病院内には他にも字が大きく表示された看板があり、病院を訪れるクライアントの目に入りやすく、情報を広く届けられる。



病院入り口に設置された看板

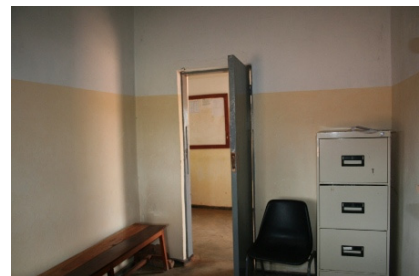
■事例 46●【改善必要事例】： 5. 掲示物

待合室には掲示用枠が取り付けられているが、十分に情報の掲示がされていない。カウンセラーと掲示物の重要性を確認した後、クライアントが見やすい位置に掲示板を取り付け、掲示を改善していくことになった。



待合室の掲示板

カウンセリング室内の掲示についても話し合ったが、カウンセラーから「カウンセリング室内への掲示は、カウンセリング時にクライアントの気を散らしてしまうために好ましくない」という意見が出された。今後、カウンセリング時に相応しい情報内容を吟味し、掲示されることになった。

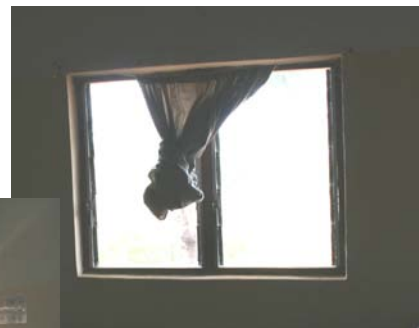


カウンセリング室内の様子

■事例 47●【改善事例】： 12. 窓下目隠し

BEFORE

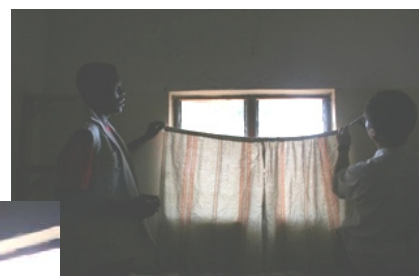
HTC センターは通電されておらず、カウンセリング中、カーテンを閉めると写真左のように暗くなり、開けると外から室内の様子が人目にさらされる。



通常の様子

AFTER

カーテンの取付高さを下ろすことを提案し、外部に人が立ったときにどの高さまで下げられるかを吟味し、改善した。



カーテン位置を改善中

病院敷地内の奥に、焼却炉が設置されている。周囲をブロック塀で囲まれ、今後ブロックの上にフェンスを重ね、施錠管理を行っていく予定である。焼却炉入り口には、写真下のように、『立入禁止』と現地語で書かれた看板が置かれている。

マラウィでは教会系病院も含め、第 2 次医療施設においては、焼却炉の整備は行き届いているといえる。一部焼却炉はフェンスが設置されている病院も見られたが、焼却炉施設周辺をブロック塀で囲み、リスク管理を徹底しているところはルンピ県病院の独自性であるといえる。

焼却炉周辺は医療器具の燃え残りなど危険なものが多く、特に子どもが興味を持って近づく可能性も高い。このような徹底した管理体制は見本とした



ブロック塀の中に設置された焼却炉

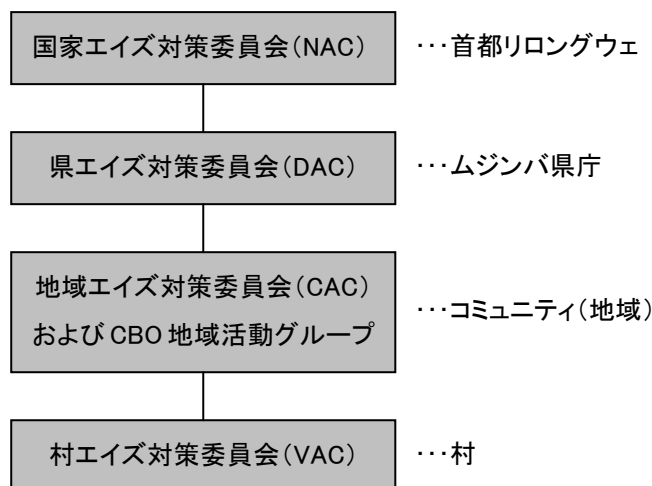


『立入禁止』と書かれた看板

3. 住民組織 (CBO) による HTC センター

- ☐ CB01 : Fasani HIV/AIDS
and Orphan Support Organization
- ☐ CB02 : Mabulabo AIDS Awareness
and Counseling Association
- ☐ CB03 : Luwerewzi Community AIDS Committee

CBO (Community Based Organization) は、地域の住民組織であり、県庁レベルで登録することが義務付けられている。このうち、HIV/エイズに関わる活動をする CBO は、国家エイズ対策委員会 (NAC^{*1})、県エイズ対策委員会 (DAC^{*2}) の管轄となる。その下に、コミュニティーレベルで村レベルの CBO をまとめる CBO を地域エイズ対策委員会 (CAC^{*3})、村レベルの最小単位 CBO を村エイズ対策委員会 (VAC^{*4}) が組織されている。



- * 1 : National AIDS Committee
- * 2 : District AIDS Committee
- * 3 : Community AIDS Committee
- * 4 : Village AIDS Committee

■ サイト 16 CBO1 Fasani HIV/AIDS and Orphan Support Organization (ファサニ CBO)

【改善項目】： 3. 待合室の位置 17. その他(採光)

1 概要

訪問日：2008 年 4 月 10 日 午前
場 所：ムジンバ県
HIV 検査開始時期：2005 年 2 月
開館時間：9 時～16 時
出張検査：あり（場所：学校）
ART：なし
職 員：カウンセラー・検査技師（男女-9）
クライアントの数（2007 年総数）：1,030



ムジンバ県の中心から未舗装道路を車で 1 時間のところに位置しており、World Vision から支援を受け、2001 年に HIV/エイズと孤児のサポート組織として発足した。HTC センターの開設や写真上の左にある集会小屋を建設するなど、CBO としての組織力は強く活動的である。ユース（青少年）委員会・孤児ケア委員会・家庭ケア委員会等、5 つの委員会を構成しコミュニティ内で活動している。

2 建築的所見での助言、改善内容

■ 事例 49 ●【改善必要事例】： 3. 待合室の位置

個人の倉庫であったのを、村の集会所・HTC センターに改修し利用している。写真にある扉の内側はカウンセリング室となるため、クライアントは外で待つこともある。クライアントのプライバシーを考慮し、目隠しの柵などを設けるのも効果的である。



HTC センターの正面

■ 事例 50 ●【優良事例】： 17. その他(採光)

カウンセリング室内の屋根の一部に、白色のトタンが使われている。村は電気が整備されていないため、窓があっても室内は薄暗くなる。このように白色のトタンを使うことで、天井から光を入れられるようになるため、室内を明るく保つことができる。



カウンセリング室室内の屋根部

■ サイト 17 CBO2 Mabulabo (マウラオエイズ対策協会)

【改善項目】： 1. 建物名表示 12. 窓下目隠し 14. 5S 概念

1 概要

訪問日：2008 年 4 月 10 日午前
場 所：ムジンバ県エンフェニ
HIV 検査開始時期：2005 年 2 月
開館時間：8 時半～16 時半（火・木）
出張検査：なし
ART：なし
職 員：カウンセラー・検査技師（女-1）
特 徴：JOCV（エイズ対策：男-1）活動中



ムジンバ県の中心から 120km 離れたところに位置するエンフェニ村周辺には、HIV/エイズ関連の CBO が 10 前後あり、その内このマウラオエイズ対策協議会が写真上の施設で HIV 検査を行っている。現在はカウンセラー1 名が保健センターとマウラオ HTC センターの 2 箇所で開催し、2 ヶ所を曜日に分けて勤務している。HIV 検査開始当初、マウラオエイズ対策協会の事務局内の一室で HIV 検査を行っていたが、事務局内にはいろんな人が出入りするために独立した HTC センターを持ちたいと考え、協会事務局向かいの建物（写真上）を確保した。

2 建築的所見での助言、改善内容

■ 事例 51 ●【改善必要事例】： 1. 建物名表示

主要幹線道路からエンフェニへと続く、村の主要道路脇に HTC センターがある。すでに周知している人でなければ、看板や建物名表示がないために、ここで HIV 検査が行われていることに気づかない。まずはアクセスの機会を提供するためにも、建物名表示を付けることが望ましい。



道路沿いに立つ HTC センター

「Box-3: アクセスしやすい施設位置とは…」にて、施設位置も考慮に入れて HTC センターを開設することで、HIV 検査施設へアクセスする心理的抵抗を緩和し、アクセス増加を図ることについて記した。HIV 検査、HIV/エイズに対する捉え方は、文化・歴史的背景、宗教、地域の状況によって異なるため、一概に正しい解答に集約しないであろうが、その土地・文化の中でセンターを利用するクライアントの立場に立ち考えてみる必要があるであろう。マウラオ HTC センターでは開館当初、入り口を裏に設けるという意見も出され、どのような環境であればアクセスしやすいかが話し合われたそうである。

■事例 52●【改善必要事例】： 12. 窓下目隠し

BEFORE

カウンセリング室内は表・裏の両窓にカーテンが取り付けられ、非常に暗い。センターには、カウンセリング用教材が揃っており、また壁にはポスター・紙に手書きされたデータ表等が掲示されているため、クライアントが資料を見やすくするためにも室内を明るくすることを提案した。



カウンセリング室室内の窓

AFTER

カーテンの位置を下ろすことで、十分に明るく改善された。



カーテン位置変更中



カーテン位置変更後

■事例 53●【優良事例】： 14. 5S 概念

壁には各種ポスターや手書きされた「HIV 検査数の推移」データ表などが、整然と掲示されている。またカウンセリングに使われる教材も豊富にあり、使用しやすいように整理されている。



カウンセリング室内

■ サイト 18 CBO3 Luwewezi Community AIDS Committee (ルウェレジエイズ対策委員会)

【改善項目】： 1. 建物名表示 9. 家具配置 12. 窓下目隠し

1 概要

訪問日：2008 年 4 月 15 日 午前・午後

場 所：ムジンバ県

HIV 検査開始時期：2005 年 2 月

開館時間：8 時～15 時半

出張検査：あり（場所：学校）

ART：あり（保健センター内）

職 員：カウンセラー・検査技師（男-2）

クライアントの数（2008 年 1～3 月）：

男-328、妊婦-260、妊婦以外女性-332

特 徴：JOCV（エイズ対策：女-1 / 看護師：女-1）活動中



ルウェレジには約 10 の村レベルの CBO があり、ルウェレジエイズ対策委員会はコミュニティーレベルでこれらの CBO をまとめる役割にある。HTC センターは、配属初代 JOCV の活動により、静岡県吉原商業高等学校のブレスレット売上金や長野県駒ヶ根市赤穂東小学校の生徒からの寄付金を得て建設された。委員会メンバー自身が建設に従事しており、椅子や机などの家具は手作りである。また建設時には、本一連調査の調査報告書「ケニア VCT センター調査報告書」を参考に設計されている。ルウェレジ保健センターとの連携を進めるために、場所は保健センターのすぐ裏側に建設された。このため HTC センターでは PMTCT を実施することが可能となり、陽性者は保健センターで ART を受けることができる。

2 建築的所見での助言、改善内容

■ 事例 54 ●【優良事例】： 1. 建物名表示

建物正面入り口上部には、青少年グループによって手書きされた看板が付けられている。全てボランティアの手作業で、各々が提供できる資源（労働力）を持ち寄って建設された HTC センターであるが、子どもたちからの提供となる手作り看板がさらに愛着を与えている。



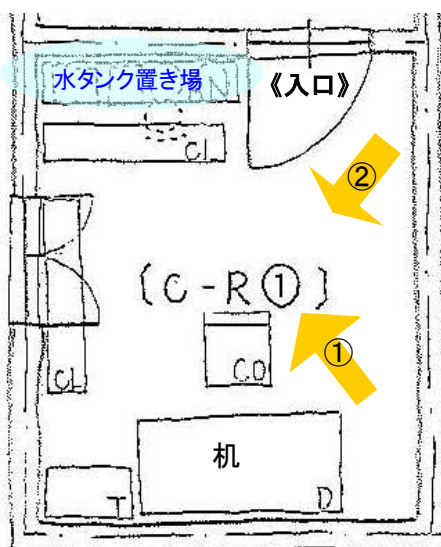
センター入り口に取り付けられた手作りの看板

■事例 55●【改善事例】：9. 家具配置

カウンセリング・検査室は、十分な広さを有しているが、プライバシーに配慮したクライアントの座り位置、またカウンセラーにとって作業効率のよい空間となるよう、センター関係者とロールプレイをしながら家具配置を吟味した。

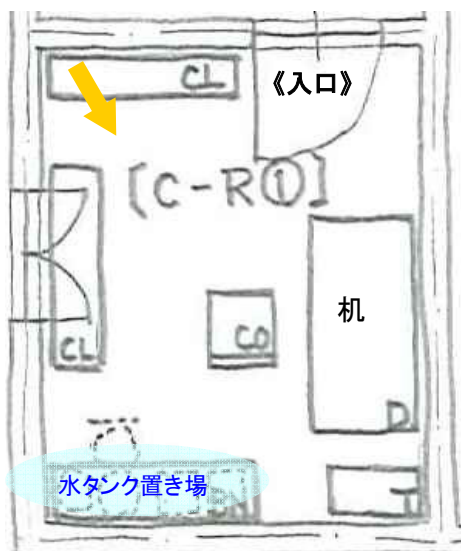
BEFORE

カウンセラーの作業台と手を洗う水タンクが部屋の対極側に置かれていたり、クライアントがカウンセリング時と検査時に座る位置を移動する必要があったりという状況にあったので、両者にとって快適となる家具配置を検討した。



AFTER

カウンセラーの作業スペースを部屋奥に確保し、備品等も集合させ整理した。クライアントは移動することなく検査を受けることができ、カウンセラーもクライアントと作業台へのアクセスがよく作業しやすく改善できた。



図中、矢印の位置より撮影



■事例 56 ●【改善事例】： 12. 窓下目隠し

BEFORE

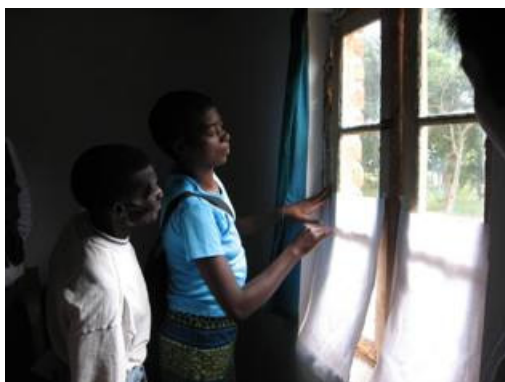
窓にはカーテンが取り付けられているが、カウンセリング時に閉めると室内が暗くなってしまうため、窓下目隠しをする方法を提案した。



カウンセリング室外から

AFTER

CBO メンバーと話合った結果、カウンセリング室にあった白い紙を目隠し部分に張って対応することになった。どこの高さまで隠せばいいか、窓の外と中から確認しながら作業を進めた。



室内、紙を張る位置を確認中



カウンセリング室外から

Box-6: クライアントの立場に立って施設を見てみよう

ルウェレジ HTC センターでは、委員長をはじめ副委員長やカウンセラー等、複数の事務局メンバーと一緒に施設改善を実施することができた。委員長から若い 10 代の女性メンバーまで年齢差も大きい中、カウンセラーや委員長がクライアント役に挑戦したり、メンバーが通行人になったりして、各シチュエーションで何が起き、クライアントがどのような心境になるかを発表し合いながら進められた。結果、カウンセラーにとって作業効率のよい家具配置や、クライアントにとってより快適な空間の確保につながった。

普段から現地でメンバーと活動をともしする JOCV の参加もあり、彼らのファシリテートもあり終始楽しく改善活動ができた。今後は 2 部屋あるカウンセリング室を、それぞれ 2 名のカウンセラーで担当部屋を決めて、管理していくことが提案された。



手前に座るのがクライアント役。
紙をどの高さまで張るか検討中。

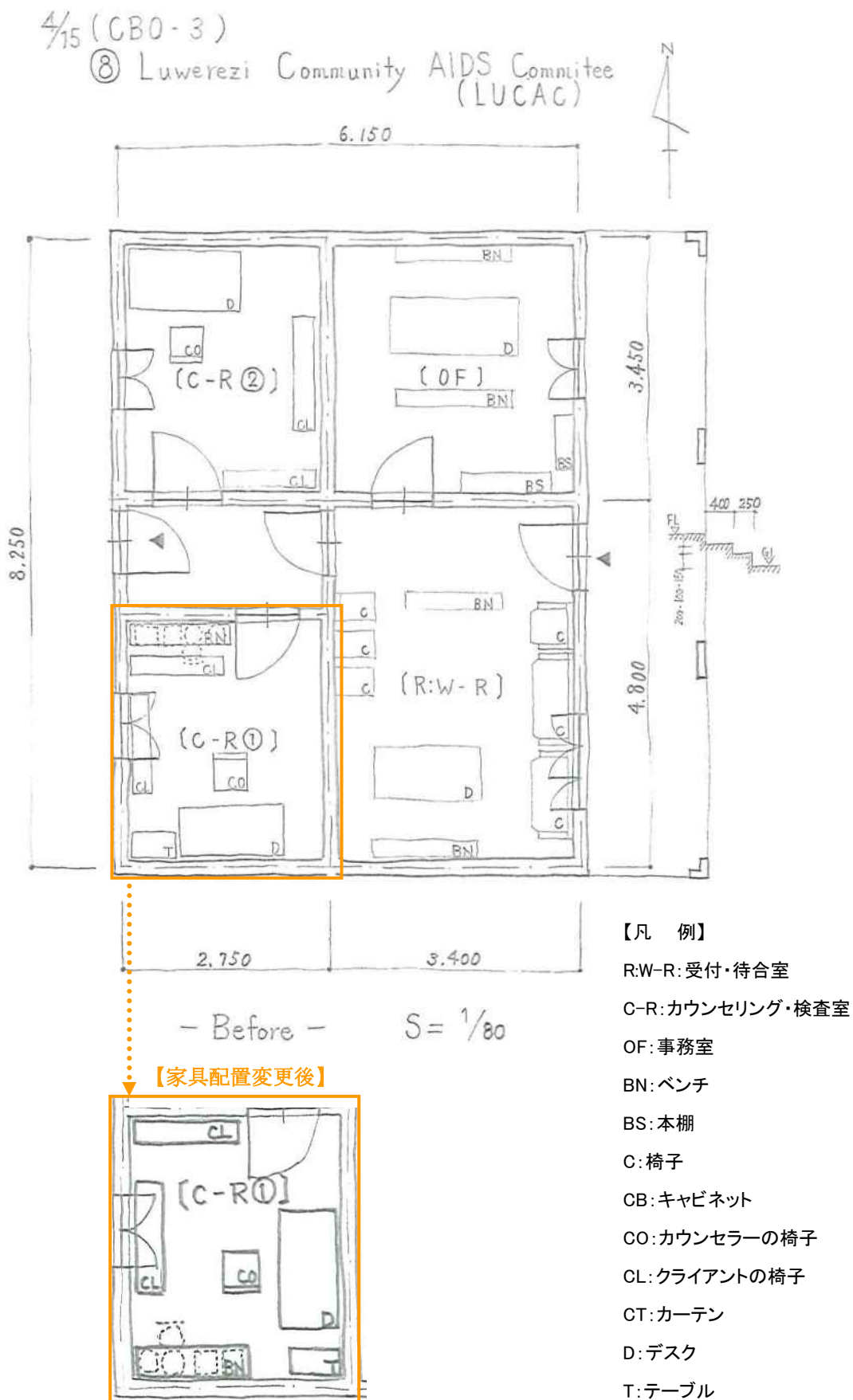


クライアント役は委員長。
通常の HIV 検査時の様子を再現中。



「こう感じないかしら？」とロールプレイ中の意見交換

CB03 Luwerezzi Community AIDS committee (ルウェレジェイズ対策委員会) 平面図



4. ムジンバ刑務所内の HTC センター

ムジンバ県刑務所 HTC センターは、門を入ってすぐのところにある。2003 年 12 月～2006 年 3 月、JOCV 村落開発普及員としてマラウィで活動した山田耕平隊員が“エイズは今の自分たちの問題である”という認識をもってもらうことを目的に歌を製作し、その収益金でこの HTC センターが建てられた。タイトルの「NDIMAKUKONDA (ディマクコンダ)」は、日本語で「愛してる」の意。

刑務所内は共同生活であるため HIV 感染リスクが高かったが、HIV 検査を導入することで、陽性・陰性者ともに感染を予防する態度を身につけ予防することが可能となった。門に近いところが選ばれたのは、近くの住民にも HTC センターを利用してもらうためである。

HTC センターの設計は、山田隊員の要請を受け、本一連調査に当たった EVAA（都市計画・建築 OV の会）メンバーが行った。

NDIMAKUKONDA

SINDIDAGWEPO MCHIKONDI NKULUMBIRA MBAMBA NDITHU
NDAYENDAPPO NDAKAZI ZACHIBWANA MBUYOMOMU
OSADZIWA CHIKONDI CHENICHENI NDICHANI
TSIKULINA MNAKUPEZA IWE MOYOWANGA UNASINTHA
CHIFUNDO CHAKO NAMWALI IWE CHINAKHUDZA MTIMAU
MZELE ZAKO NAMWALI IWE ZIKASINTHA MTIMAU
LIU LAKO NAMWALI IWE UNATONTHOZA MTIMAU
MTIMA YATHU INALAKALAKA KUTI TIKHALE MCHIKONDI

NDIMAKUKONDA UMANDIKONDA NDIZIWA
SINDIKUFKA POTI NDIKHALE WAPANTIMA PAKO
NDIMAKUKONDA UMANDIKONDA NDIZIWA
MBUYANGA CHONDE MPATSENKONI MWAYWINA

TIDAFANGANA TSIKULINA ZOKAYEZESA MAGAZI
SINDIDAFUNE KUONONGA WACHIKONDI WANGAYU
TIDAKUMANA NIDADOTOLE NIKUMADIKIRA MAYANKHO
MTIMA WANGA UNAGUNDA NDINAPEMPERA KOLIMBA
ANALANKHULA DOTOLE MULIMBEMTIMA MUMVERE
MAGAZI ANU TAYEZA ZOTSATIRA NDI IZI
MULI NKACHILOMBO ACHIMWENE KOYAMBITSA EDZI HI
MOYO WANGA UNAVUTA KUSOWA MTENGGO OGWIRA

USALURE NDIWE MBAMBANDEDI
LIDZAPEZA WINA MWAMUNA OPOSA INE
NDIMAKUKONDA UMANDIKONDA NDIZIWA
MBUYANGA CHONDE MPATSENKONI MWAYWINA

ANATONTHOLA MKUNDIENZA KUTI
TIZAKHALA LIMODZI MCHIKONDI MPAKA MUWYA

Written by KOHEI YAMADA
Composed by MLAKA MALIRO

愛してる

今まで思したことなんてなかった
ずっと思ひだった クレイジーだった
本当の愛なんて知らないで
でもある日君に出逢った そして僕の人生は変わったんだ

君の優しさに感動した
君の顔の良さには夢心させられた
君の声が癒してくれて
僕は君に恋をした そして君も僕に恋をした

愛してるよ 君が僕のことを愛してるのを知ってるよ
でも僕たちは結ばれない運命だったのかな
愛してるよ 君が僕のことを愛してるのを知ってるよ
神様 もう一度だけチャンスを

僕たちはVCTに行くことを決めた
愛する君を傷つけなくなったから
医者に見てもらい 結果を持った
心臓がバクバクと鳴った 神様に祈った

そして医者は言った 落ち着いて聞いてください
検査結果はここにありますが HIVが陽性です
彼は残念ながら HIVが陽性です
僕はどうすればいいんだろう

泣かないで 君は素晴らしい
君にいい男を見つけてくれ
愛してるよ 君が僕のことを愛してるのを知ってるよ
神様 もう一度だけチャンスを

そして君は突然泣きやんで僕に言ったんだ
別れてるのよ 私たちはずっと一緒にいて

作詞 山田耕平
作曲 ムラカ・マリロ

I Love You

I had never fallen in love I can truly say
I had been playing around with ladies I used to be crazy
Without knowing real love
One day I met you And my life had changed

Your mercy touched me
Your intelligence impressed me
Your voice healed me
I fell in love with you And you fell in love with me too

I love you I know you love me
I think it is fate that we shall not be together
I love you I know you love me
God, give me one more chance

We decided to go to VCT
Because I didn't want to harm you I love
The doctor saw us We waited for the result
My heart beat was heavy I prayed for God

The doctor said Calm down and listen
Here are your test results
Sorry brother, you are positive
I don't know what I shall do

Don't cry You are wonderful
You should find better man
I love you I know you love me
God, give me one more chance

And suddenly she stopped crying and told me
Don't talk like that We will be together in love forever

Written by KOHEI YAMADA
Composed by MLAKA MALIRO

Recorded and Mixed at: Alliloya Band Studio
Guitar played by Rod Valamanja
Bass played by Stephano Lipena
Keyboard Played by Gino Chawilo
Backing Vocals sung by Bernadette Ailaka Malim
Lead Vocal sung by Kohei Yamada

The Songs are composed and arranged by MLAKA MALIRO and written by KOHEI YAMADA



「NDIMAKUKONDA」歌詞(チェワ語、日本語、英語)

■ サイト 19 P1 Mzimba Prison (ムジンバ刑務所)

【改善項目】: 5. 掲示物 14.5S 概念

1 概要

訪問日: 2008 年 4 月 11 日 午前

場 所: ムジンバ県

職 員: カウンセラー・検査技師 (女-1)

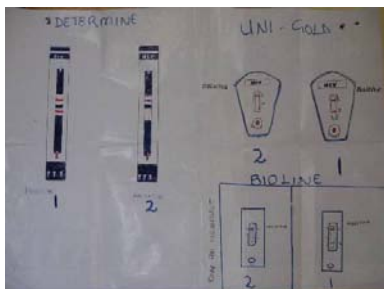


2 建築的所見での助言、改善内容

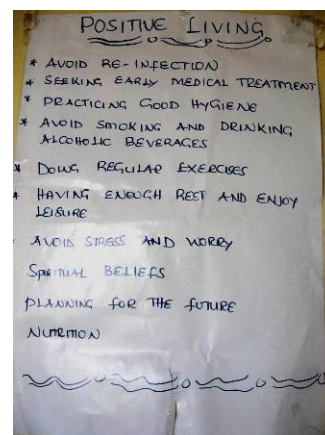
■ 事例 57 ●【優良事例】: 5. 掲示物

ポスター右は、結果が陽性となったとき、どのような点に注意して日常生活を送ればよいかを示している。例えば、「清潔を心がける、喫煙・飲酒を避ける、ストレスや心配事をもたない」等が記されている。

ポスター左は、検査キットに出る結果の陽性・陰性を示す。自分のキットと比較できるために信憑性が高まり、判定ミスを防ぐためにも有効である。



検査キットの結果判定



陽性となったときの
注意事項

■ 事例 58 ●【優良事例】: 14.5S 概念

検査備品が整理整頓されて置かれている。検査台と水道が隣であるため、作業効率もよい。広くない一室のカウンセリング・検査施設であるが、家具配置が工夫され、備品管理が行われているため、狭さを感じない。

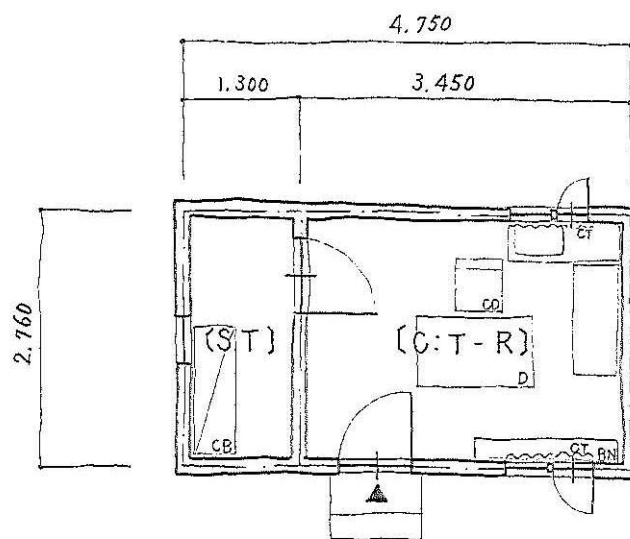


整理整頓された検査台

P1 Mzimba Prison (ムジンバ刑務所) 平面図

4/11 (P-1)

⑤ Mzimba Prison VCT Center



【凡 例】

C:T-R: カウンセリング・検査室

ST: 倉庫 / 収納庫

CB: キャビネット

CO: カウンセラーの椅子

CL: クライアントの椅子

CT: カーテン

D: デスク

- Before - S = 1/80

気づきのカード

現場で、クライアントの「プライバシー保護」について建築的アドバイスをを行うとき、文化や習慣の違いによって、しばしば困難に直面する。そもそも「プライバシー保護」という概念は、日本でも最近になってその重要性が認知されるようになったものであり、また「クライアントの立場」というサービス精神は途上国には浸透していないことが多い。

そのため、相手側が理解し、行動するための「気づき」が必要だと考え、ケニア・ガーナでの調査の経験から、「絵のカード」をコミュニケーション手段の一つとすることを考えた。

現地作業の都合上、実際には使われなかったが、このカードを見て「この状況からは何が想定できるか」、「クライアントの立場に立つとどう感じるか」ということを、現場の職員と共有し、話し合うことができる。

現場で応用可能であれば、自由に使っていただきたい。

1. クライアントのプライバシーは守られている？
2. クライアントの姿を見えなくするために・・・。
3. クライアントの立場に立ってみよう。
4. カウンセリングは快適に受けられる？



作者：高村哲 建築家、デザイナー

(有)ノームプランニング代表

全国の公園設計などのかたわらイラストを描く。登山専門誌『岳人』の表紙を長年担当した他、イラスト教室なども開く。

自身が関わる「バングラデシュ農村地域の衛生事情とエコ・サントイレ導入に関する研究プロジェクト」では現地の人々が自分たちでトイレ作りが出来るためのイラスト・マニュアルを描き、当会理事の保坂公人氏とともに平成18年7月、京都大学環境衛生工学研究会の優秀プロジェクト賞を受賞した。EVAA 会員

気づきのカード 1

クライアントのプライバシーは守られている？



検査に行きたいけれど・・・。
アプローチしやすい場所にあるだろうか。



扉が開くと自分の姿を見られてしまう！



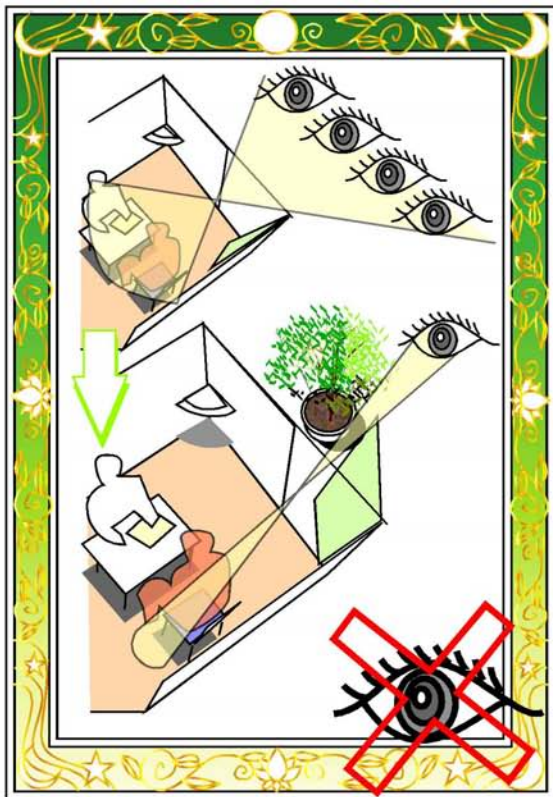
待っている間に見られるのはいやだな・・・。



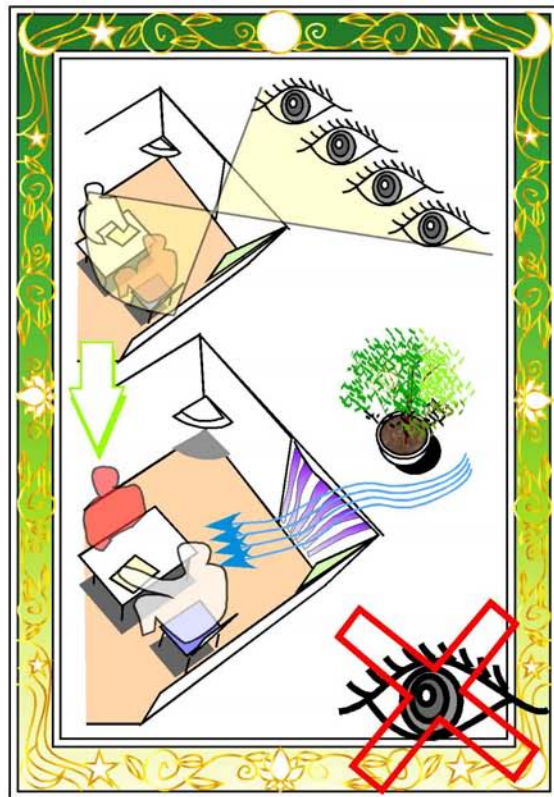
話の内容を誰かに聞かれていないだろうか？

気づきのカード 2

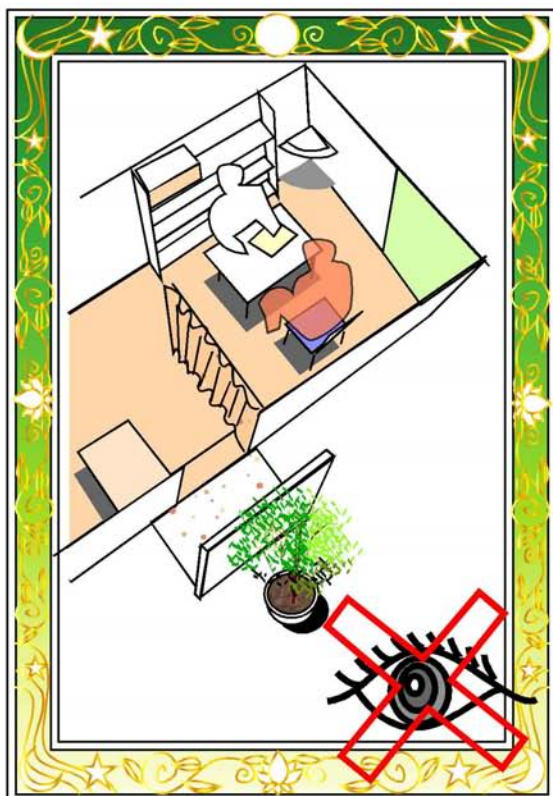
クライアントの姿を見えなくするために・・・。



扉の側に植木を置く



扉にカーテンを引く



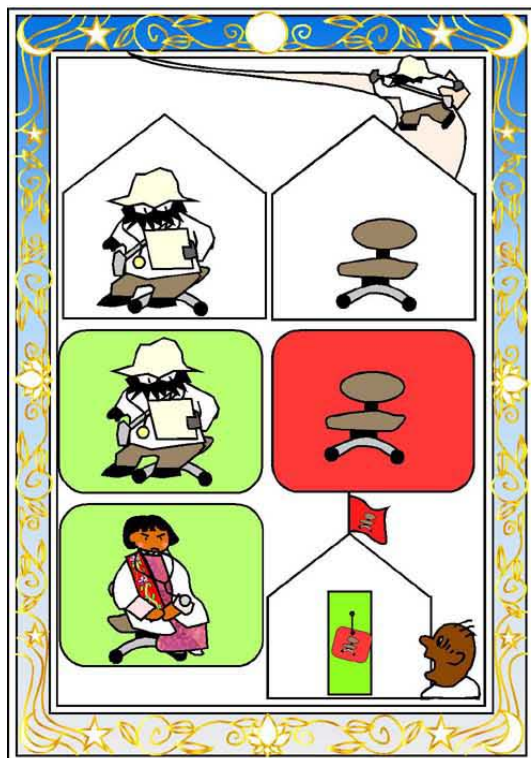
入り口に障害を設ける、カーテンで仕切りをする



入り口に植木を置く、本棚で仕切りをする

気づきのカード 3

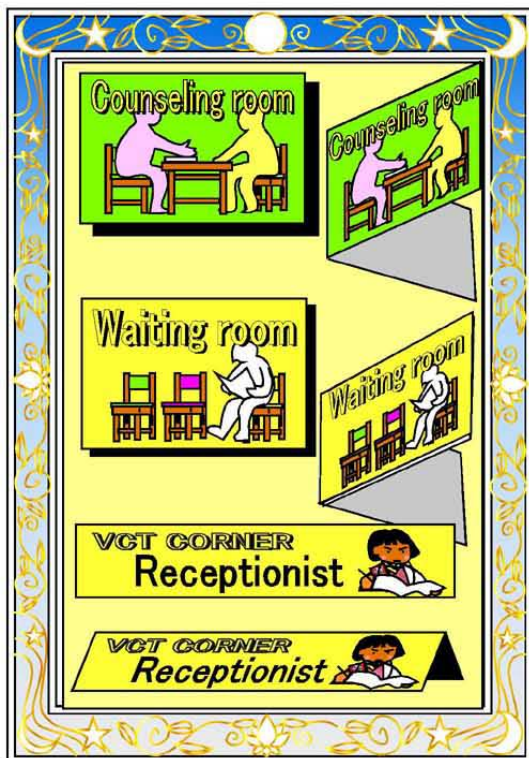
クライアントの立場に立ってみよう。



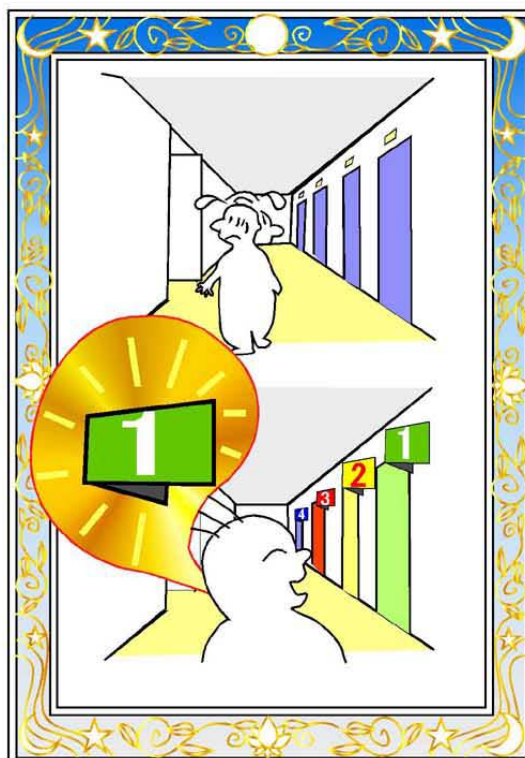
今カウンセラーはいるの？



今は誰がカウンセリングしてくれるのかな？



カウンセリングはどの部屋に行けばいいの？



目的の部屋を見つけられない！！

気づきのカード 4

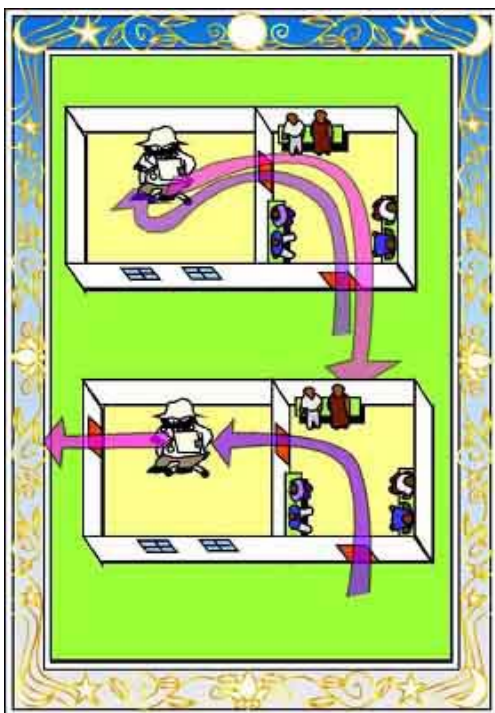
カウンセリングは快適に受けられる？



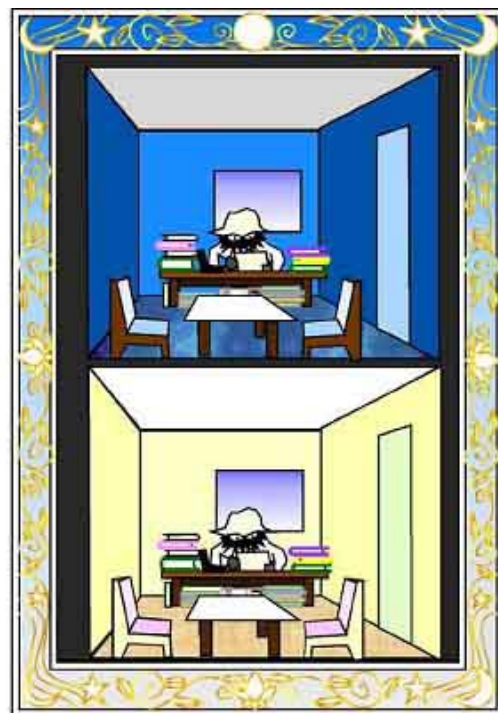
誰かに見られて落ち着かないよ



窓の下を覆うと部屋の中が見えなくなったよ



検査の後、誰にも見られずに帰りたい
(入り口から出口へ方通行)



どんな部屋の環境が落ち着いて
カウンセリングを受けられるかな

NPO 法人 都市計画・建築関連 OV の会 EVAA < Ex-Volunteers Association for Architects >

青年海外協力隊(JOCV)の隊員 OB、OG の職種別組織。建築設計、都市計画、地震学など、幅広い意味での建築、都市計画関連分野の有志により「JOCV 職種別 OV 会」として 1998 年に設立され、2002 年には NPO 法人となって現在に至る。OV は OB、OG の総称。

1965 年から始まった青年海外協力隊の派遣事業において、建築、都市計画に関連した分野での OV は総勢 600 名以上にのぼる。

当会会員も、20 代から 60 代までの幅広い年齢層にわたり、その中心は一級建築士などの国家資格を持ち、建築設計、コンサルタントなどの職に就く「プロ」の集団である。

それでも、現在は、建築関連の専門 OV だけにとどまらず、多様な専門性を持つ 150 名余りの会員で構成されている。

これまでに、モンゴル、ブータン、モロッコ、エチオピアなどに派遣された隊員に対して技術支援を行ってきたほか、JOCV 技術顧問の派遣、在外大使館への設計監理者の派遣、建築隊員活動事例を調査しての提言書作成、公益助成金での出版活動を行ってきた。

2005 年の「愛・地球博」では、日本トイレ協会との連携で、「トイレ探検館」を出展した。

さらに、国際協力フェスティバル、アフリカンフェスタなどの催しには毎年積極的に参加し、会の広報、他機関との意思疎通を図っている。

そして、アフリカにおける HIV/AIDS 検査施設に対して、クライアントのプライバシーを保護する改善策を調査・実施するために、2006 年 3 月に JICA シニアボランティアとしてケニアに派遣されたことにはじまり、2007 年 3 月にはガーナ、2008 年 1 月にはセネガル、そして一連の調査最終 4 回目としてマラウイで活動を実施した。各々の調査活動について活動報告書を作成し、本報告書はマラウイ版の事例集である。

専門知識と協力隊活動での知見も加えたこの 40 年間の蓄積を用いて、途上国に対する協力や現在派遣されている隊員の方々への支援に生かすとともに、広く国際社会へ役立たせるために、草の根の市民団体として、世界との交流を広げていくことを目指している。

URL: <http://www.evaa-japan.com>

E-mail: info@evaa-japan.com evaa.japan@gmail.com

本報告書編集委員および協力者(五十音順)

市川達也、小泉新一、清水研、鈴木忠博、長田有加里、濱野博、松崎志津子、松村文雄

